## 問3-10-1　肝炎に感染していることを知った当時の気持ちーその他

| No. | 問3-10-1　肝炎に感染していることを知った当時の気持ちーその他 |
|---|---|
| 1 | 急性肝炎で即入院だったため、治療に専念した。 |
| 2 | たまたま行った人間ドックで分かり、使用時から13年も経っていたので、こんなことがあるんだとびっくりしました。ただ、吐き気や倦怠感を感じることが今まであったので、それが肝炎のせいだろうと分かり、少し気持ちが楽になりました。元白血病患者としては、まだ病院と縁が切れないんだなと思いました。 |
| 3 | 「退院しても、10年後、20年後に慢性になり、肝癌になっていきます。必ず年２、３回検査をして下さい」と病院の先生に言われました。このウィルスが身体にある以上、いつか身体の中で暴れだし、肝癌で死ぬんだと、目の前が真っ暗でした。辛かったのは、子供の年と自分の命の長さが、反比例していくことでした。子供には絶対に感染させてはいけないと、心に刻みました。世間にも絶対に知られないようにと思い、後ろ向きな心で、家の中は暗かったです。 |
| 4 | 現在、肝癌その他が急激なスピードで進行中であり、その治療を早急に確実にしてほしい。時間がないのである。 |
| 5 | 肝炎に対する知識が乏しかったから、本を読み勉強した。病院や肝炎の会などが主催する講演会にできるだけ参加した。一生抱える病と覚悟し、うまく付き合っていこうと、自分と家族に言い聞かせた。医学は日進月歩。いずれ良い治療薬ができると思った。 |
| 6 | 不安なので、マラソンをパタッとやめた。 |
| 7 | 息子が高１で、娘が５才（保育園）。借家住まい、貯金なし。働きたいのにできなくなるなど、お金のないのが辛かったです。入院している時、シーツに少し血液が付くと、見舞いに来てくれた人に感染ると思い、看護師に何度も取り換えてもらっていました。何故こんなことになったのか、原因が分からないから怖かった。ベッドの足元や頭の所に、「血液」と書いてあったので、血液の病気なのだと、何となく分かったためです。あの時の気持ちは、相当酷かったです。 |
| 8 | いっそ、国が殺してくれた方がまだましだと思ったこは多々ある。それができないのなら、国民全体を肝炎に感染してもらい、国民全員でこの苦痛を分かち合えればと、考えたことも多々ある。 |
| 9 | 第２子出産後の発病だったため、途方に暮れた。あの当時のことは、もう思い出したくないほど辛いことだった。 |
| 10 | 被害を受けたショックよりも、この先この病気とどのように向き合って生きていくか、生まれたばかりの息子と家族にとって、何がベストなのか、しっかり考えなければという気持ちが、とても強かったように思います。もちろん、不安や恐れでいっぱいの時もありましたが、「負けたくない」「病気にも、弱い自分にも負けたくない」「病気では死なない、寿命で死ぬのだから」と、自分に言い聞かせていました。 |
| 11 | インターフェロンを２度受けましたが、その時は元の体に戻ったかと思いますが、数年後に、又、数値が上がり治療。10年、20年と年数が長くなると、進行も早くなると言われました。今後、再発しないかと不安な日々を送っています。 |
| 12 | ・子供達が小さかったので、死んでいられないと思った。子供達を残して死ねない。<br>・離婚した<br>肝炎を発生してからまる22年が過ぎ、当時の気持ちはきっとこうだったと思う。 |
| 13 | 当時、医師からの十分な説明がなかったため、この先身体がどのように変化するのか、大変不安であり、毎日の生活も落ち込んでいました。家庭内が、暗くなっておりました。 |
| 14 | 結婚して子供ができてから、肝炎が分かったので、どうやって家族を養っていこうか悩んだ。 |
| 15 | 25才で出産して、当時の辛い気持ちが答えをはっきりできず、アンケートの回答の訂正が多くなってしまった。 |
| 16 | 産後の辛さは、自分がだらしないからだと情けなかった。しかも、夢であった職場を去らなければならない程、体がだるかったのは、薬害、血液製剤であったと知った時は、無念の一言だった。 |
| 17 | １日１日を無理しないようにセーブして生活してきたので、やり残した事がいっぱいあるように思う。やりたかった事、身体優先のため、あきらめた。子育ても精一杯できず、子供にとても可哀相な思いをさせたことへの、責念の気持ちがずっと心に残っている。 |
| 18 | 当時、白血病だったので、更にＣ型肝炎になったことで、本当に生きて家に帰れるか不安になった。 |
| 19 | あきらめ |

| No. | 問３-10-1　肝炎に感染していることを知った当時の気持ち－その他 |
|---|---|
| 20 | 出産時の出血で肝炎になってしまったため、その時生まれた子供が、「ママが病気になったのは私のせい？」と泣きそうな顔で聞いてきて、「違うよ。その時の治療のせいだから、〇〇ちゃんのせいじゃないよ。元気に育ってくれて嬉しいんだよ」と言って、抱きあって泣きました。その時私は、絶対に肝炎では死なない（死ねない）と思いました。肝炎が原因で死んだら、この子が自分のせいでママが死んだと自分を責めてしまう。絶対に、そんなことを思わせてはいけないと思いました。 |
| 21 | Ｃ型肝炎になったことで、主人との関係が悪くなった。 |
| 22 | 平成22年１月には83才。高齢者ですが、あと２、３年は頑張りたいと思います。 |
| 23 | 肝臓癌で死ぬのは怖い。 |
| 24 | 肝炎と言われても、人事のような気持ちで聞いていたように思いますが、将来が不安になり、子供も産めないのではないかと、とても不安になったことを思い出しました。 |
| 25 | 肝炎を患った時期から、回復の方向に進んでいても、10年間は３ヶ月おきに肝機能検査を行ってきた。その後は６ヶ月おきになり、2000年からは１年おきに検査を行っている。検査結果を聞きに行くのが怖くて、不安がいっぱいである。 |
| 26 | その当時は、それほど重大な病気とは思っておりませんでした。 |
| 27 | 病気と共に生きるだけ生きる。 |
| 28 | ４才で感染が分かり、子供には病気の説明はしてこなかった。ただ、自分の血液は自分で始末するようにとだけは、十分話してきた。歯ブラシ、針、カミソリ、鼻血など。中学１年の終わりから１年間治療し、以後、ウィルス（-）で経過が良く、部活動もできるようになってきた。本人は今のところ、深刻に考えていない。今は、受験勉強で余裕がないようです。 |
| 29 | どうして！私が何かした？検査結果の通知の宛て名を何度も確認したが、私の住所と名前に間違いなかった。主人はＣ型肝炎の知識が全くなく、勉強しようともしなかった。一緒に生活する上では、いろいろ意見の違いが出てきた。 |
| 30 | 子供を死産した後、その状況から自分が立ち直ることと、上の子供（２才）の世話で、ほとんど余裕がありませんでした。また２年後には、次の子供を出産しましたので、本当に多忙な日々だったと思います。私が肝炎で気持ちが沈んでしまったのは、平成９年。落ち着いていた血液検査の結果が悪化し、再度検査を受け、その際、Ｃ型肝炎と診断された時です。それまでは、「もしかしたら・・・」と思いながら、他の原因で一時的に肝機能が落ちただけだと、自分をごまかしていました。色々な情報で、Ｃ型肝炎は深刻な病気ということは知っていましたので、自分がそういう病気だということを受け入れるのが、とても辛かったです。又、平成元年に次の子供にも恵まれましたので、その子供に感染したのではないかという不安がありました。そのため、診断を受けた後は不眠気味となり、２年程神経内科を受診していました。その間は将来の不安で、絶望するこもありました。若い頃、看護させていただいた肝ガンの患者さんが思い出されて、仕方がありませんでした。肝臓破裂で腹部に血液が溜まり、亡くなられた方。肝性脳症で、夜中に突然書道をしていた優しい患者さん。静脈瘤破裂で長期入院されていた方等、本当に壮絶な闘病でしたので、友人とは、「肝炎だけにはならないようにしないとね」と話していました。その方達と自分が重なり、自分から逃げ出したくなる時もありました。主人と相談し、子供には18才になったら（高校卒業）話して、検査を受けてもらおうということに決めました。そして、2008年２月、大学受験を終えた子供に話しました。薬害肝炎の原告の方々が、国と和解した直後でしたので、子供も、肝炎の事を少しは理解していたようで、泣きながら話を聞いてくれました。夏休みに検査をして、ウィルスは陰性とうことが分かり、家族皆で喜びました。今は何かにつけ、相談に乗ってくれ、励ましてもくれています。 |
| 31 | 取り敢えずは、母なし子にならなくて良かったと思いました。ただ、日が経つうちに、子供が歩くまで生きられるか、学校に入るまで・・・等々、常に死と隣り合わせでした。生きていたいと思いました。 |
| 32 | 肝炎のために、７ヶ月入院しました。死ぬに死ねない。子供達のことを思うと、入院中も泣いてばかりの日々でした。 |
| 33 | 当時、長女２才、生まれたばかりの子を残し、長期入院していました。今思い出すだけでも辛いです。身内に大変迷惑をかけました。 |
| 34 | 発病以来約27年間、月１回の割合で通院、検査。薬は毎日飲んでおり、一時は肝硬変一歩手前と言われ、入院治療を勧められましたが、費用等の問題があり、食事療法とか漢方の針に通ったりして、何とかGOT等の値が100以下になり、現在も通院しております。 |
| 35 | とてもショックで、希望がなくなり、死んでしまいたいと何度も思いました。しかし、２人の子供のために、20才までは必死でやってきました。今は、２人とも23才、28才になり、子供達の事は、少しホッとしています。 |
| 36 | 当時の国の責任者も同じ苦しみを味わってほしい。 |
| 37 | 肝硬変、肝ガンになって死んでしまうんだと、目の前が真っ黒になり、病気と闘う気力がなかったです。 |

| No. | 問3-10-1　肝炎に感染していることを知った当時の気持ち－その他 |
|---|---|
| 38 | 知った当時の気持ちではなく、知ってから治療をして、ウィルスが検出されなくなった期間の中で、感じた気持ちで回答しました。知った当時だと、肝炎についての知識が少ないので、ここに挙げている気持ちのほとんどが、考えてはいませんでした。 |
| 39 | 肝炎の事は、まだよく分かっていなかったため、療養すれば治ると思っていました。ただ、子供が３才と小さかったので、外へ連れ出してやれず、不憫に思いました。当時は、肝炎という病気でも、人に話すことに後ろめたさは持っていませんでした。 |
| 40 | 見かけは元気そうに見えるので、「何故仕事ができない！」と家族に言われたりした。二度と治らないと知り、入院中から夫と不仲になり、自営業も廃業。それまでやっていた茶道教室、ピアノ教室も病気が治る保障もないのでやめたり、他にも着付け、華道もしていて、一部資格を取得しておりました。書道も、あと７年位で教室を開けるところまできていたので、思い出すと、今でも悔しさが込み上げてきます。私達夫婦と子供の道も断たれた悔しさは、想像を超えます。夫とは、急性肝炎発症から１年で離婚しました。 |
| 41 | 出産して１ヶ月検診で、数値が上がっていることが分かり、即入院でした。絶対安静で、ベッドに横になっていることしかできなくて、ひとりで涙がこぼれていました。産科の病棟に入院したので、同じ病室の人達は、赤ちゃんにおっぱいをあげたり、うれしそうにしているのに、私はなんで？という気持ちでいっぱいでした。一番辛かったのは、母乳を飲ませてあげられないことで、母乳は出るのに、冷やしてわざと止めなくてはいけないことでした。主人、家族の人達、実家にも子供はお世話になり、迷惑をかけて申し訳なかったです。 |
| 42 | 肝炎と聞かされても恐ろしい病だとは、何も知らなかった。両親は血圧が高く、血圧の心配、又、伝染病として結核、エイズ、ハンセン病と、我が世代は聞かされていた。ずいぶん誤った伝え方を国民にし、大変な病気を引き起こしたということに、怒りを覚える。 |
| 43 | 感染当時は、よく病気について理解していなかったため、必ずみんながんになるのではと、落ち込んだ時もあった。 |
| 44 | 和解すれば、生活保護は打ち切られ、借金返済をして、残金がどのくらいあるのか不安であり、支援法が頼りである。 |
| 45 | 当時は、肝炎という病気がどんな病気なのか、詳しくは知らなかったと思う。とにかく、何とかして治りたいと思った。ただ、子供が小さかったので、子育てに夢中になり、生き甲斐にもなり、励みになりました。主人も理解があり、家事など助けてくれました。 |
| 46 | 出産後、１ヶ月目の出来事だったので、上の子供と３人で死にたくなりました。 |
| 47 | 病院を訴えようと思いました。 |
| 48 | 母子感染している可能性が強いので、その子供の今後の健康状態が気になる。子供にもその可能性があることや、検査を受けることが言えないでいる。 |
| 49 | 自分の体は大変な事になっていると、新聞、テレビ報道で知りました。どう動けばいいのか分からず、たまたま隣町に肝臓の専門の先生が赴任してきて、色々相談しました。１ケ所では納得できず、隣の県に行き検査をして、同じ結果でしたので、近くで治療を始めようと決めました。子供も１才半でしたので手もかかり、自分の体の事が不安で一杯でした。インターフェロンも試験段階で、未知のものである（試験的にやっていた方もいました）。専門の先生がいた事は、とても心強かったです。何でも話をすることができたこと、幸せに思います（今はご病気で亡くなりました）。 |
| 50 | 肝炎を初めて知った時は、この先どうなるのだろう？の気持ちでいっぱいでした。 |
| 51 | 肝炎に感染したと知って、本人はもちろん、周りの人（夫、夫の実家、親戚）全員から、もう死ぬのではないかと思われ、それからずっと、「体の弱い人」というレッテルを貼られている。自身は、肝臓の勉強をしたりして前向きに考え、生きてきました。周りの人々からの変な目線や考えに、何もかも嫌になったが、離婚をしても、自分１人では生きていけないと考えて、嫌いな人々の中にいて、耐えるだけの今までの人生でした。肝炎＝耐えるです。 |
| 52 | 出産時に感染してしまった人は、自分の事だけではなく、子供の問題もあるので、精神的にも肉体的にも、とても大変だと思います。人生で一番幸せな時期が、一変して絶望的になるのですから、それを受け入れて前向きに生きていくには、本当に大変なことでした。ただ、私が一番恐れていたのは、その事の実質を子供が知り、罪悪感を持つことだけは、あってはならないと、いつでも明るく、息子を授かった喜びや幸せだけを話してきました。 |
| 53 | どうしてこんなに体調の悪い毎日が続くのだろう？どうしてこんな病気になってしまったのだろう？自分が不摂生をして病気になったのならば仕方がないが、何も悪いこともしていないのにと、悩みました。この当時は、まだ治る病気だと思っていました。 |
| 54 | 出産後の突然の入院であり、慢性化すると治らないと医師に言われ、絶望した。 |
| 55 | ガンにだけはなりたくなかったので、47才になったら死ぬつもりでした。そのつもりで、警察に調べられてもいいように、エコーに書いた。そうしたら、怒られた。今は笑い話だけれど、あの時は真剣だった。 |

| No. | 問3-10-1　肝炎に感染していることを知った当時の気持ち－その他 |
|---|---|
| 56 | 死んでしまいたいと思ったのは、IFNという辛い治療を受けたにもかかわらず、完治しなかった時です。生きていても、家族のお荷物になるだけではないかと考えました。 |
| 57 | 今から思うと、肝炎に対する知識が何もなく、無知そのものであった。 |
| 58 | 色々思い、表現できないくらいでした。幼い我が子の成長を確認するまでは死ねないとの思いと、自分自身の心は深い底のない沼に沈められたような、重いうつの時間が増えて、明るく振る舞うほど、孤独感でいっぱいでした。 |
| 59 | 感染から13年経過して告げられましたが（2000年）、高額な治療費と副作用が厳しい治療を、諦めなければならないことが悲しかった。週２～３回の強ミノの注射は、２年間続けたが、あまり効果はなく、血小板が減少した。病気に対する焦りと不安が、いつもつきまとい、何かでごまかしていたように思う。 |
| 60 | 肝炎になったことを考えてくよくよしても、仕方のない事ですし、できるだけ病気の事は考えないように、自分の身体をいたわりながら、毎日を過ごしていきたいと思っています。 |
| 61 | 早く治療して治してほしいと思った。 |
| 62 | 大変な病気になってしまったと、悩みに悩んだ。人に感染する病気という事と、５～10年で肝硬変になると本に書いてあり、恐ろしくなった。３人の子供をおいて死ぬことはできないと思ったが・・・。フィブリノゲンではないと思っていたし、ましてや、その事さえ知らずにいた。当時は、人に感染する病気イコール死と考えており、怖かったし、大変な病気になったと、どうしようと考えた。 |
| 63 | 出産直後に体調不良で入院。肝炎と診断され、半年近く入院。母乳を与えていたので、子供も肝臓の数値が高く、治療。２才の長男もいたが、家族バラバラな生活が始まる。病気の不安と同時に、精神的にもすごく落ち込み、周りの人々にも負担をかけ、申し訳なく思った。子供にも淋しい思いをさせ、この頃はとても辛かった。 |
| 64 | 全てが肝炎に振り回されているようだった。保存血１パックの輸血で感染したと思っていたので、ただウィルスが消えることだけを考え、ウィルスが消えたら、元の元気な体になると思っていた。小さかった子供達が、私の体調をいつも心配している姿が、余計に辛い気持ちだった。 |
| 65 | 生まれたばかりの娘を残し（２才の息子も）、２つの病院に入退院を繰り返しました。職場復帰するまで２年かかりました。36年前で、Ｃ型肝炎という病名もなく、慢性肝炎、非Ａ非Ｂ型肝炎と言われていました。出産の際の輸血が原因だと思い、薬害である認識は全くありませんでした。思い出すのも辛い。思い出したくない何年間です。 |
| 66 | まさか治らない病気だとは思わなかった。 |
| 67 | 感染していることを知った当時は、家事や子育てに一生懸命で、病気の事を詳しく知ろうとも思わなかったし、死に至る恐ろしい病気であるとは知りませんでした。病気になった本人の気持ちは、他人には分からないと思います。インターフェロンの副作用はとても辛かったけれど、その辛さも健康な人には分からないことです。家族のために、妻、母としてのやるべき事を毎日、時には無理もしたと思いますが、やって来られたかなと思います。 |
| 68 | 肝炎に感染しているのを知ったのは、22年も前のことで、記憶が多少ゆるくなっていた部分があったが、アンケートを書いていくうちに、いろいろ思い出して、書き直してしまった。出産１ヶ月ちょっとで急性肝炎で入院となり、それから６～７ヶ月の長期入院！結婚して10年目で授かった娘とも１ヶ月で離ればなれで、毎日病院のベッドで泣いていたように思う。子供にお乳をあげた記憶もなければ、抱っこしたりおんぶしたりもしていない、悲しい母親であるというトラウマがある。 |
| 69 | インターフェロンがどのくらい効くのか？この先の肝ガンへの心配、再発への心配。 |
| 70 | 肝硬変、肝ガンにもなったが、見た目がどこが悪いの？という感じです。軽い買い物袋ひとつ持って帰る時、その時は十分持てたつもりが、夜になると足がつり、死にものぐるいで、夜中によく悲鳴をあげているのが辛いです。10分位でおさまる時はいいのですが、痛み止めや湿布等をしても、４～５時間つったままの時は、本当に死ぬ思いで辛いです。当時は、お酒も飲めない私が何で肝炎になったのかと、信じられない思いと同時に、幼子３人を育てながら、生活のため仕事と育児で忙しすぎて、医師から肝炎のことを聞き、どうしたらいいか死にたい気持ちになりました。体が思うようにいかず、辛かったです。 |
| 71 | まだ独身だったので子供のいる今とは違い、守るものがない上、仕事上死とは背中合わせだと感じることもあったので、病気になったこと、それにより死ぬかもしれないことなどへの恐れよりも、なぜ肝炎やエイズの恐れのある薬剤が安易に使われたのかということへの怒りの方が強かった。入院中の入院費も、なぜ、病院でうつった病気なのに私が負担するのか、納得がいかなかった。主治医はお見舞いの花を持ってきたが、ピントがはずれていると、腹が立った。主治医の上司は、血液製剤で感染したとは限らないとわざわざ言いに来て、私を怒らせた。24才の若い娘だからバカにしていると思った。父が医師ではなく、皆知らない人達ならば、訴えたかった。その病院の院長夫人は、「●●●●●●●はきつい仕事だから、辞めるのも潮時でしょう」と言った。すべて忘れられません。父が医師で尊敬してきたので、日本の医療のお粗末さに初めて気付かされ、医療の質とは医療に携わる人、１人１人の人間としての質も問われていると思いました。 |

| No. | 問３-10-１　肝炎に感染していることを知った当時の気持ち－その他 |
|---|---|
| 72 | 第１子出産後の１ヶ月健診採血で、急性肝炎が分かりすぐ入院。１ヶ月の子を親に頼み半月入院。いちおう数値は下がり（100台）退院したものの、疲れやすく、十分子供の世話ができなかったことが悔しかった。母乳から子供に感染するかもと言われすぐ中止。母乳で、健康な子供に育てたいという願いは断ち切られる。以後、強制的に母乳を止めたのが原因かどうか分からないが、乳腺症になり、平成19年には乳ガンが見つかり手術。抗ガン剤、放射線治療をし、今はホルモン剤服用。その副作用なのか不眠，ホットフラッシュ、気分の落ち込み、関節痛に悩まされる。今は肝炎の数値は一応落ち着いていますが、20年過ぎた頃から悪くなるとも聞きます。これからどうなるのか、乳ガンを含めとても不安に思い、日々生活しています。 |
| 73 | 手術を受け、その時に使用されたフィブリノゲン。20年経った今も病気の怖さから逃げられません。定期的に行う腹部エコーウィルス検査。病院と縁が切れません。肝臓ガンというレールの上に乗っています。インターフェロン治療と副作用と高額医療で、決心がつかない現状です。現在の医学で、安心して受けられる治療を望みます。薬害が繰り返されない国づくりと、インターフェロン治療費の助成額、期間について、前向きに進んでいただきたい。 |
| 74 | 当時はウルソの増減、強ミノと、数値が上がらないよう、治療に先生を信じて、時間ができると体を休めるよう心掛けて、運動量も減少させていました。 |
| 75 | 結婚後、初めて授かった第１子流産の際、DICを起こして、「命と引き替えの輸血です。肝炎発症の可能性はありますが、了承してもらえますね」と主治医に言われ、輸血して一命をとりとめました。その後肝機能が500～と高い数値に。強ミノの点滴投与を受け続け正常値に。止めると1,000～まで数値ははね上がり、又点滴・・・を何度も繰り返し、入院は７ヶ月に及びました。それまで、風邪など寝たら治る病気しか知らなかった私は、治らない病気を受け入れることができず、投げやりな気持ちになったこともありました。退院後も近くの病院へ通院し、点滴投与を続けましたが、数値は100より下がらず、医師に「治らない病気なんだから、この程度」と言われた時が、一番ショックでした。兵庫医大では「いくらでも治療方法がある」と言っていただき、希望を持つことができました。そこで、以前通院していた病院で使われていた点滴が、ミノファーゲンではなく、ノイファーゲンであったため、肝機能がおさえられなかった事を知らされ、通院していた期間が無駄であったと悔やまれました。又、何度も確認したのに、「強ミノと一緒や」と断言し、ノイファーゲンを使用していた医師に対して、怒りさえ覚えました。 |
| 76 | 肝炎に感染したのは26年前。お産の（輸血）後１ヶ月後に黄疸と全身倦怠感の症状が出たので、産院で検診。GOT、GPTが2,000程度あり、劇症肝炎でした。その後３ヶ月近く入院。その時は肝炎の恐ろしさを全然理解していませんでした。その後、新聞やテレビ報道で、この病気の恐ろしさを知りました。近くの病院では、そのうちいい薬が出ますよと言う先生の話で、あまりこの病気の事は気にしていませんでした。 |
| 77 | 生まれて３年後にはもうＣ型肝炎（感染）だったので、普通の体力がどれくらいなのか分からないので、つい頑張ってしまい、後が疲れる。「もとの体を返してほしい」の、もとの体が私にはないので、辛く思うことがあります。ありました。 |
| 78 | 感染を告げられた時は、何故私が・・・？どうして？という気持ちで信じられませんでした。昨年の１月までは、自分は輸血による感染だと思い込んでいましたが、血液製剤による訴訟ならば、もしかして私もそうかと思い、駄目でもともとで手術した病院に行き、カルテが残っていたのでびっくりしました。 |
| 79 | まだ働けていることに、感謝しています。病気のために、仕事をなくしたらどうしようと考えたことは多々ありますが、働かせていただけて感謝しています。埼玉にいたことがありますが、歯科の先生に治療を断られた時は、悲しかったです。 |
| 80 | 私がインターフェロンを始めた頃は、３人に１人の割合でしか効果がないと言われました。でも、先生の「絶対に治る薬ができる」という言葉に、全く不安はありませんでした。１本目のインターフェロン後、あまりの苦しさに逃げ帰りたい気持ちでしたが、絶対に治るという言葉を信じて、乗り切ることができました。医者は技術だけではないと痛感しました。私は、その先生と出会えたことによって、勇気をもって病気と付き合うことができました。 |
| 81 | 残念で悔しい。命の短さに辛い思いである。毎日毎日どきどきして生きていくことの苦痛。国に人生をもぎ取られたと思った。子供に移植を願い出ましたが断られ、妹（本人）も苦しんでいた。子供との移植問題。互いに苦しむと思う。もう少し国の力がほしいと思います。死を待つだけです。医師からも話があり、子供も自分が原因であることを知っている。 |
| 82 | 最初に肝炎であると知った時は、子供を死産し、その上二度と子供の産めない体になり、そのことの方が私にとってはショックで、肝炎に感染していることなど、どうでもいい気持ちでした。 |
| 83 | 告知後、長い年月も経過し、もはや後期高齢者の仲間入りです。この上は、いずれの病にしろ、最後まで自力で歩けることを目標に、日々健康を心掛けた暮らしをしていきます。 |
| 84 | 病気のことでの相談相手は、感染してから１人もいない。自分の人生を、もとの体を返してほしい。 |
| 85 | 当時は、非Ａ非Ｂという何だか分からない病気だということで、不安でしょうがなかった。何をどう治療すればいいのか、どんな事に気を付ければいいのか。ただ、高カロリー、安静、点滴と言われ、本当にこんな事で治るのか分からなかった。 |

| No. | 問３-10-1　肝炎に感染していることを知った当時の気持ち－その他 |
|---|---|
| 86 | 子供達、主人にＣ型肝炎が感染していないか、とても心配であった。 |
| 87 | もう24年も前のことですが、当時はまだ若く結婚したばかりで、夫の給料も少なかったので、入院費や普通に通院しても、検査代もバカになりませんでした。インターフェロンも当時は保険が利かなかったので、１回３万円×週３回×月４回×６ヶ月のお金はなく、あきらめていました。保険が利くようになったと友人から聞き、平成13年に治療しました。医療費の自己負担の軽減や、所得によってですが、自己負担なしにしてほしいです。 |
| 88 | これまで人に迷惑かけることなく、真面目に生きてきたのに、どうしてという思いでした。それと同時に、家族の誰でもなく、まだ自分でよかったと自分を納得させる思いでした。経済的不安もあり、すぐにインターフェロン治療など、考えることもできなかった。 |
| 89 | 当時は死の恐怖（劇症肝炎）もありました。子供も小さく、母として妻として嫁として、何にも役に立てない自分を責めて、イライラする毎日でした。けれど、夫の優しさや子供の笑顔、周りの協力のお陰で、徐々に元気になりました。当時は、検査数値にも一喜一憂して、先の見えない治療に苛立ちもありました。誠意ある医師に出会うと、涙していました。 |
| 90 | 当初は自分自身が若かったし、子育て真っ最中だったので、病気の数字のことよりも、必死で生きていたことだけを思う。 |
| 91 | これまで18年間、とても疲れやすく、いつも体がだるく、家事も思うようにできず、自分で怠け者だと思い込んでいたのは、そうではなく肝炎に感染していたせいだと思った。よく夫婦喧嘩もした。時間を返してほしい。 |
| 92 | 感染を知った時、肝炎から肝がんになると言われ、あと何年生きられるんだろうかと絶望したが、他の病院で天寿をまっとうされている方もおられますし、悪くなるまでに、まだＣ型肝炎が分かってから日が浅いので、良い薬ができるかもしれませんからねと言っていただき、心が楽になりました。 |
| 93 | Ｃ型肝炎になる前は、人との付き合いも億劫ではなかったが、インターフェロンを打ち治療し、なぜかそれから体力が落ち、元気に生活している方が羨ましかったです。お産の時に大量出血し、生命が助かっただけでもいいと思わなければと、当時は思い、頑張ってインターフェロン治療を続けました。毎回高熱が出てとてもつらかったけれど、当時の会社と家族に支えられて、頑張れました。専業主婦だったら、治療できませんでした（高額）。 |
| 94 | インターネットや本で病気の事を調べたりすると、つらい気持ちになった。自分には、「きたない血」が流れていると思って、落ち込むこともあった。１人目の出産の時の感染なので、２人目の子供に感染していたらという不安があった。 |
| 95 | ここ数年肝炎の治療をしていないので、はっきりしたことは分かりませんが、気持ちはゆらいでいる。 |
| 96 | 心臓病と肝臓のダブルパンチで、本当に希望を失いました。妻との離婚もありました。自分が心臓病になったのが原因ですが、仕事も十分にできず、疲れるのです。そして体が痒い。医者からも十分注意するよう言われ、ビクビクハラハラの状態でした。現在も不安です。肝炎になった時、風呂の制限があり苦痛でした。肝臓で約１年程、心臓手術した病院に入院しました。入院中、展望が全くなくて、七転八倒でありました。医者から感染を伝えられた時は、本当に絶望的でした。心臓を助けられて、こんな事を言うのも申し訳ないのですが・・・。 |
| 97 | 当時、子供は中学生と高校生でした。ただ、子供のために何としても生きなければと思いました。 |
| 98 | 今は家族（特に主人）に守られて、頑張っています。感謝しています。 |
| 99 | 肝炎がある自分とない自分を比べることはできないので、現在の自分を丸ごと受け入れて、生きていこうと思っています。疲れたら休む。ただジーッとして休養することで少し元気がでてきたら、動き出すようにしています。自分の気持ちを上げることを大切にして、モチベーションを下げるようなことは、考えないようにしている。 |
| 100 | いくら完全に治ったとしても、身体の中にウィルスが100%いなくなるとは信じられません。現に今、医師はありませんと言われますが、数値が発症前より高いので不安です。 |
| 101 | 体調に変わりはなかったが、検査値は高値を示していて、自分の知らないところで病気がどんどん進んでいき、死んでしまうんだと思った。毎日、「自分があと数ヶ月の命しかない」という夢を見た。 |
| 102 | 今は心配してくれる主人がいて心強いが、１人になったら心細い。又、主人も体の不調がよくでるので、とても心配。 |
| 103 | 第１子を出産したばかりで、どうやって生きていって良いか、強く不安に思った。でも、やらなきゃいけないことがいっぱいで、その気持ちが強かった。 |
| 104 | 主治医から、放っておけば慢性肝炎、肝硬変、肝臓ガンと進行していく病気だと言われ、怖かった。 |

| No. | 問3-10-1　肝炎に感染していることを知った当時の気持ち－その他 |
|---|---|
| 105 | 私は白血病で亡くなった娘のドナーになるため、検査を受けました。検査の結果、医師から、「お母さんはC型肝炎に感染しているので、ドナーにはなれません」。とてもショックでした。その時は、自分の体より娘を助けてあげられない悔しさでいっぱいでした。つらい治療にも弱音をはかず、一生懸命生きようとした娘は、H19年１月３日21才で亡くなりました。悔しい。とても悔しいです。許せない。 |
| 106 | 生後すぐの子供を抱いて、毎日点滴に病院に通い、その時肝臓がすごく腫れていて、血液検査でもすごく上昇していて、よく歩いて帰れたと思った。どうして肝炎なのか、子供は何とか健康に育てる事を一番に考え、自分の事は後回しになった。出産後に体調を崩したのかと考えたが、やはり、出産時にした点滴が頭にあった。病院へ何回か問い合わせた。苦痛を分かってもらえず、辛い日々を送った。１ヶ月検診の時、出産時の病院へ行った時に黄疸が出ていて、小児科の先生がびっくりして、産科の先生に相談に走って行った。ますます病院に不信感を抱いた。生活費、医療費と生活がきつい。 |
| 107 | このまま病気が進行するのを待ちながら生活するのか？子育てはできるのか？不安でたまりませんでした。 |
| 108 | とにかくショックだった。手術の１ヶ月後に肝炎を発症した。約３年間寝たり起きたりの生活だった。家族も大変だった。私も辛かった。 |
| 109 | 医師に、長生きしたかったら働きに出ずに、なるべくグータラしていなさいと言われたので、子供達が小さかったので、無理をせず体調を気遣いながら、子供達が大きくなるのを見ようと思った。 |
| 110 | 色々な病歴があるので、質問にあてはまらないものがあります。１人の子供も失って、自分も肝炎になってしまって、何が言えますか。この質問は、原告にとって失礼です。 |
| 111 | 当時、入院は２ヶ月位と言われたが、４ヶ月過ぎても退院できず、生きて病院から出ることができるのかと不安だった。 |
| 112 | 出産時、胎盤剥離で、残念ながら子供は死産して、母親（私）も相当危険な状態だったと、聞かされておりました。その当時、肝炎の怖さは自分なりに知っていたつもりでしたが、ひきかえに命をいただいた事に対して、犠牲あっても命だったのかなと、仕方なく自分なりに納得しておりました。 |
| 113 | 肝炎と知り、医者からインターフェロンをしないと、後には肝硬変になり、その後は肝ガンに進行する」と言われた時には、絶望的な気持ちになり、「死」が常に頭から離れない日々でした。しばらくは誰にも言えず、泣くことしかできなかった。私なりに少しずつ本を読み、インターフェロンが全てではないと思うようになったり、この病気と仲良く生きていこうと思ったり、感情に波がありました。 |
| 114 | とにかく将来の不安が大きく、いつまで生きられるのか、ガンになるのでは・・・と、いつも頭から離れない生活を送っていた。せめて、子供が成人するまでは生きたいと思うことが、生きる望みだったと思う。いつも検査数値に一喜一憂しながらの生活は、苦痛そのものでした。 |
| 115 | 運良く（？）急性肝炎で発症していることが分かりました。当時、長男（小学１年生）、二男（生後１ヶ月）と離れて、入院生活をしていました。その時の色々な心配。義母や実姉に子供達の面倒をみてもらっていたが、父親と子供達の関係も（躾を厳しく言う人だったので）心配で、居ても立っても居られぬ状態でした。 |
| 116 | まだ10代だったため、とても苦しかったです。 |
| 117 | 体もそうですが、心もボロボロになった時があります。みなさんもそうだと思います。何をするにも元気がなければできません。子供の運動会には行けず、大人になった子供に「大人はうそつきだ。僕はそう思う」と言われ、返す言葉もなく。私も一生後悔して生きることとなりました。 |
| 118 | 死への恐怖。子供がまだ小さかったので、将来への不安。ただただ泣くことしかできなかった。 |
| 119 | それまで病気をしたことがなく、健康な体に産んでもらった親に感謝していたが、一生付き合っていかなければならない病気になり、病気が進行してガンになるかも知れないと思うと不安で、親に申し訳ない気持ちだった。３人の子供のためにも治療をして、早く元気な身体を取り戻したいと思う反面、ほとんどが治らない病気と聞いて、悔しく不安な思いだった。 |
| 120 | どっちみち死ぬのに・・・。一時は意欲がなくなったことを思い出した。 |
| 121 | 当時は子供を産んだばかりで、新米ママとして頑張るつもりが、退院後１ヶ月入院。肝炎の病気がどんな病気か知らず、すぐ帰宅できるものと思っていたが、数値がなかなか良くならず、子供にも会えず、何でこんなことになったのか、何度も暗くなってから泣いた。数ヶ月後、母が会いたいだろうと娘を連れてきてくれたが、この頃になると、うつる病気なのかも知れないと思い、すぐに娘を連れて帰ってもらった。久しぶりに見る娘は、キャリーバックいっぱいに背が伸びていて、ビックリした。可愛い娘に何もしてやれず、とてもつらかった。 |
| 122 | その当時は、体調が変化しなかったので、特に感じなかった。ただ、病院に定期的に検査に行くのが、時間をとられるのでいやだった。 |

| No. | 問3-10-1　肝炎に感染していることを知った当時の気持ち－その他 |
|---|---|
| 123 | 知った当時は娘が高校１年生で、私立女子校ということで、お金もすごくかかっていました。又、仕事も忙しく、自分の事より、しなければならない事の方が多かったように思います。 |
| 124 | Ｃ型肝炎だと言われてもピンとこない。今度は、病院で検査したら肝硬変。先生の話もよく聞こえず、何を言われているのかすら覚えていなくて、家に帰るまでボーッと怖くて眠ることができず、あっちこっちの病院の先生に話を聞いてもらい、やっと落ち着いた。Ｃ型肝炎の治療にインターフェロンがいいと病院に行ったけれど、私には無理だと言われた。だから、治療していません。 |
| 125 | 出産し、親となった喜びもつかの間、体調を崩し、５ヶ月の入院生活を送りました。主治医から告げられた病気の事。特効薬もなく、確実に寿命は10年位縮まるであろうとの説明に、泣き崩れた時のことは、今でも忘れられません。ベッドでの安静生活の中、考えるのは「どうして？なんで？これからどうなるの？」、そんな事ばかりでした。子供も抱けずに辛い日々でした。21年以上経っても昨日の事のように思い出される。思い出したくない出来事です。 |
| 126 | なっていたんだなと思ったが、親が肝炎になっていない事は、すごく嬉しかった。不安で仕方がなかったですが、逆に、周りが厳しく、自分だけが不幸じゃないし、一番苦しいのは母だと思った。 |
| 127 | 本人が知的障害者のため、親の心配や動揺で、不安は感じていたようだが、質問のような細かな感情は特になかったと思う。 |
| 128 | 11年前の出来事で、現在は完治していますから、あてはまらない答えが多くなりました。家族や兄弟の協力も強く、私の性格が明るいのが幸いしたと思っています。 |
| 129 | 家族の協力がないと、肝炎とは闘えないですね。現在治療中です。 |
| 130 | 10才の時にどう感じていたか、正直覚えていません。ただ、自分の仕事（役目）として、病院で検査を受けていました。 |
| 131 | ・肝炎になったのは悔しかったが、私には子供が３人いる。なんとかして、子育てをしなければならないという気持ちがあった。<br>・話を聞いてくれる友がいたことが救いだった |
| 132 | 医療の進歩に大きく期待しています。インターフェロンもそのうち内服で済むようになれば、痛い思いをしなくても済む。 |
| 133 | 治療して治らなかった時、自分にもしもの時に、子供の事が心配だった。 |
| 134 | 感染者以外には、理解できないと思う。 |
| 135 | 初めての病院に行く時、問診票にＣ型肝炎と記入するのがいやだ。特に歯科、外科。 |
| 136 | ・第２子、第３子をもう出産していたので、子供に感染していないか、とても不安だった<br>・今後、病気が進行し、家族にどの位迷惑や心配をかけるか不安だった（体調や金銭面）。 |
| 137 | ウィルスが検出されなかったので、検査をした医師に、「もう完治していて、普通の人と変わらない」と言われたが、本当に再発する可能性がないのか不安だ。 |
| 138 | できるだけ進行を遅らせて、少しでも長生きをしたい。子供もまだ結婚していないので。 |
| 139 | 肝炎に感染している疑いがあると知らされた時は、それほど深刻な病気であるとは思っていなかったのですが、黄疸が出たりして、苦痛な病気だと思いました。 |
| 140 | 大工という体を使う仕事をしていたが、体を気づかうあまり、休みがちになってしまった。忙しくても体が思うように動かず、仕事ができなくなる不安でいっぱいでした。 |
| 141 | 自分が肝炎になるとは夢にも思わず、ショックで夜も眠れない日々が続きました。まして家族（嫁、孫達）に理解してもらえるのか、同居したばかりだったので不安で、今でも心配しています。 |

## 問3-10-2 最近数週間の気持ち－その他

| No. | 問３-10-２ 最近数週間の気持ち－その他 |
|---|---|
| 1 | 職場の上司に、この病気の事を伝えてある人は何人かいるが、健康管理の担当の方が変わるたびに、知られてしまうのが辛い。誰も病気の事で「辞めた方が・・・」と言う人はいないが、本当にこの職場にいていいんだろうか？自分から辞めるというのを、待っているんじゃないかと、時々不安に感じる時がある。 |
| 2 | もう入院したりしたくない。元気で毎日過ごしたい。今、39才ですが、肝炎になって17年なので、進行していくことが怖いです。 |
| 3 | 今はGOT、GPTがいいので、少し安心している。年４回検査をしているのが苦痛。でも仕方がないですね。今は、検査しかないので、いつまでもGOT、GPTがいいように願います。 |
| 4 | 肝炎感染が判明した当時は、炎症の進行により、肝硬変、肝癌に移行するとしても、20年以上先の事だと思っていたが、既に27年が経過し、これから先どうなっていくのか心配です。エコー検査の度に、癌ができていないかドキドキしてしまう。身内に肝硬変から肝癌になって亡くなった人が３名いる。その亡くなり方を目にしているから、余計に心配である。医療従事者でも、肝炎について正しい知識が徹底していないと感じる。特に、歯科では必要以上に、医師への感染を恐れられている気がする。 |
| 5 | 会社勤めもなくなったので、今度は身体が悪くなったら安心して入院することにします。給付金を有り難うございます。とても嬉しいです。いただけるよう努力して下さった方々に、感謝しています。 |
| 6 | 告知直後から現在まで、放置し続けてきた国に対しての怒りに、変化があるはずがない。 |
| 7 | インターフェロン治療後、ウィルスが検出されず、半年に１回程度の検査のため、今は前向きに病気と付きあっている。 |
| 8 | インターフェロンの治療のお陰で治癒したため、現在は、あまり病気だという意識は持たなくなれた。しかし、いつか再発するのではないかという不安は、いつも心の中にある。 |
| 9 | 来年、インターフェロン治療を予定しています。副作用、薬の効果等、とても不安です。ウィルスが1Aというデータが、あまりないのも不安の一つです。 |
| 10 | 子供達も成人し、これからは今まで私を育ててくれた母（81才）の世話をしなければならないので（今の事が分からない、物の区別、分別もつかなくなってきている）、死んではいられないが、内心は疲れる。前向きに生きようという気持ちは十分あるが、体力、気力が追いついていけない時もある。 |
| 11 | 何をするにも根気がなくなり、長続きせず、飽きっぽくなってきた。人生の楽しみもなくなり、この先のことを考えると、何のために生きているのか・・・もう、嫌になってきた。もう終末だと考えることがあります。 |
| 12 | 和解金も、自分のためではなく、家族のためにとっておく。治療もしたいが、一度仕事を辞めなければならず、治療後の仕事のことが心配。又、治療しても完治するとは限らない。 |
| 13 | 現在は、ウィルスが検出されないが、今後のことには不安がある。 |
| 14 | 平成19年、夫は癌で亡くなりました。それまで、経済面で支えになってくれていたのですが、会社も左前になり、治療費とローンで途方にくれました。Ｃ型肝炎の症状で、経済力等何の役にも立たないと思っていましたが、私がやらなければと掃除パートをしていたら、少しずつ底力が出るようになりました。しかし、出費をまかなうことはできず、借り入れしてしまうことになりました。今は１人で、誰も支えになる人も特にいませんが、自己管理に努めていますが、不安がまったくないわけではありません。 |
| 15 | 弁護団、原告団の皆さんと励ましあいながら、気持ちを楽にできたと思う。治療の講演会などに参加でき、少しずつ希望と元気をいただけた。 |
| 16 | 現在はインターフェロン治療中でウィルスが消えているが、いつまた発症するかもしれないという不安はある。ただ、受ける前よりは、将来に希望が持てた。 |
| 17 | 疲れやすい、夜起きていられない。早く寝るわりには、疲れがとれない。自分がやろうと思った事が、疲れていてできないことがある。イライラする。このサイクルの悪循環で、ストレスがたまる。家族にあたってしまうことがある。そして落ち込む。最悪。 |
| 18 | あきらめ |

| No. | 問３-10-２　最近数週間の気持ち－その他 |
|---|---|
| 19 | ３回のインターフェロン治療で、今は落ち着いているので、このままであってほしいと思っています。肝炎になったのが29才で、30代、40代という人生で充実した時期であるはずの時を、肝炎治療中心に過ごさなくてはならなかったのが、残念です。子供達の成長を心の支えに、頑張ってきたという感じです。ですから、インターフェロンでやっと落ち着いた体調が、このままであってほしいと切に思います。治療中、家族、特に子供に「ママが死んじゃったら」という、他の子のしない心配をさせたことが、可哀相でなりません。今現在は、家事もこなせているので、治療の大切さを感じます。でも、経過観察中で採血するたび、数値が気になる生活から抜けられないのは、負担に思います。 |
| 20 | 朝夕夜中と体温計を見るたび、今は良し、また熱かと弱気になってしまい、微熱が続き、朝目覚めた時は、今日も命を頂けたと感謝です。ここ１～２ヶ月前より、腹部に水が溜まりはじめ、予約日外に、近くの医院に事情を話し、エコー、点滴を受けている。 |
| 21 | 私は１型と診断され、インターフェロンの治療も、高齢で難しいと医師から伝えられている。 |
| 22 | 仕事がてきなくなったら、どうしたらいいのか不安。 |
| 23 | 現在、インターフェロン治療中なので、身体的にはとても苦痛だが、希望を持っている。 |
| 24 | 最近送られてきた肝炎の本で、同じ時期にＣ型肝炎になってインターフェロン治療を受けた方の経験を読み、自分はインターフェロンは受けないという選択をして、まぁまぁ元気で生活も楽しく、親の介護を10年やり、子供を２人育ててこれて、幸せなのが分かった。治療の選択は、とても重要な事だと思いました。 |
| 25 | H21.５.１より３回目のインターフェロンの治療中です。72週の予定ですが、白血球、血小板、好中球が減少し、ギリギリの状態での治療です。全身の倦怠感、かゆみがひどく、辛い治療の毎日です。 |
| 26 | 進行が進み、死を待つのみです。 |
| 27 | 第２子の男子が、ウィルスは発見できないが、体内で感染したことがあるということで、少し不安に思っている。 |
| 28 | 治療法の進展に希望を持ちながらも、同時に不安を抱えている日々です。 |
| 29 | 最近、肝臓が悪くなっているので、糖が200位になってしまって、困っています。インターフェロンでは完治しないと聞きますので、私はやらずに死のうと思います。 |
| 30 | 今後の病気の進行具合がとても気になる。 |
| 31 | 最近になって、急に気持ちが変化するということはありません。１日として、肝炎の事を忘れて過ごす日はありませんが、一時期のように、思い詰めるということもなくなりました。私はウィルス量が多く、1b型と治りにくいタイプなので、来年行う予定のインターフェロン治療も、あまり期待しないようにと、医師に釘を刺されています。苦しい思いをして、治らなかった時のことを考えると、不安になりますが、チャレンジしてみようと考えています。 |
| 32 | 子供も大きくなりましたが、欲は続くもので、孫を見るまでは元気でいたいと思います。これからは段々悪くなる道を歩んでいくでしょうから、少しずつ身の回りの整理も始めようと思っています。 |
| 33 | インターフェロンの辛い治療を、今年の１月まで受けました。今はウィルスが検出されない状況ですが、患者会の人から、再発したとの情報も多々あり、私も再発することがあるのか？不安は尽きることがありません。 |
| 34 | 今は、完治目指して前向きに進もうという気持ちはあります。しかし、一度再燃しているため、不安はあります。 |
| 35 | 検査をするたびに数値が気になり、いつ肝硬変と言われるか不安である。いつも肩こり、腰の痛みがあり、マッサージや気功治療を受けている（年に３、４回）。保険適用になれば良いと思う。 |
| 36 | 非Ａ非Ｂ型肝炎と知らされた時は、どのような病気かピンとこず、禁煙をして、酒は週に２回ビール小瓶と言われ、５年ほど辛抱しましたが、慢性肝炎と言われ禁酒。食事も油脂類や塩分、その他肝臓に悪い物は食べないよう指導され、今も不自由な生活をしております。 |
| 37 | ペガシス、コペガスの治療中だが、ウィルスがなかなかマイナスにならない。1bの私は、効果がないのかと不安になる。肝硬変から肝ガンの治療をDVDで見たら、麻酔が効かないとか。10分間、地獄の苦しみを見てしまった。ガンが１つできれば、また次々にできるとかで、そういう話を聞くと、耐えられなくなり、不安になり、誰とも（友達）付き合いたくなくなり、死んでしまいたいと時々思います。20年も経ったので、とても不安です。 |

| No. | 問3-10-2　最近数週間の気持ち－その他 |
|---|---|
| 38 | 16年前、１回目のインターフェロン。７年前２回目。インターフェロン＋レベトール治療を受け、ウィルスがマイナスとなり、現在までマイナスが続いている。しかし、２回目は１回目と段違いに副作用が強く、76本で中止しました。特に、食物アレルギーが極度に悪くなり、何を食べたらいいのか分からず、ノイローゼ状態でした。●●時代の主治医が、アレルギーの専門医なので受診。カモガヤのアレルギーが血液検査で判明。食事指導を受け、アレルギー対応の食品を取り寄せ、●●のアレルギー専門医に体質改善と症状緩和の薬を処方してもらい、少し改善される。しかし、外食はできず、家で気をつけて調理したものでも、アレルギー反応がでて、起きていられない時があり、勤務交替してもらうことも時々あり、良い方法かないかと探していた時、電位治療器の体験会にであい、40回通って、症状が今までより改善されたのを実感したので購入。自宅で１日１時間特殊電子療法（フットケア）を続けているうち、体力もついてきて、アレルギー症状も前よりずっとやわらいできて、少しずつ食べられる食品が増えた。漢方薬を飲むことも、少なくなりました。しかし、１日中食べる物に気を使う状態は続いていますし、特に、好きだった果物（りんご以外）は食べられず。甘い料理、菓子、佃煮等はいまだにダメで、ビート糖を使って、自分で調理したものでないとダメ。ウコン、あくの強いもの、血合いの多いもの等、量と回数を考えなくてはならず、レトルト食品、半製品、大豆油を使ったもの等、まだまだ気にしなくて良い生活にはほど遠いです。老後のことを考えて（施設では、複雑なアレルギー対応の食事は作れない）、自宅でヘルパーに来てもらい、私が大丈夫だと思える食材と調味料で作ってもらうしかないかなと、老人住宅を建てました。安保徹さんのアレルギーの考え方、自己免疫力の本を参考に、主治医は自分だと思うようになりました。しかし、肝炎にならなかったら、こんなことにはならずに済んだのにとの思いは、一生消えることはないだろうと思います。 |
| 39 | 肝炎に感染した当時の気持ちと今の気持ちに、ひらきがあると思う。感染当時はまだ若く、治療薬の開発の期待があり、まだまだ生きる意欲がありましたが、長年の経過により（23年）、自身の病状も一段と進み、「いよいよの時」を意識し始めて、絶望を感じることもあります。ただ、この事実を受け入れるしかないので、いろいろな感情があっても、前向きに生きていこうと思っています。相変わらず、家族には迷惑をかけていますが、そのことはずっと申し訳なく思っています。こんな薬害が二度と起こらないように、皆で知恵を出し合って、薬害防止に取り組んでいきたいと思います。 |
| 40 | Ｃ型肝炎のCMが気になるが、また毒を入れられるのではないか不安。 |
| 41 | 今、インターフェロン投与中で、ウィルスは消えています。でも、インターフェロンを終えたら、またウィルスが復活するのではと、不安でいっぱいです。副作用もきつく、止めたいと思う時もあり、新薬ができるのを待っています。 |
| 42 | 今は数値も平均になりました。やはり、自分でインターフェロンとか治療に専念したので、治ったと思いますが、家族の協力なくしては、できませんでした。仕事を辞めたり、子供に迷惑をかけたりした結果です。 |
| 43 | 近年は、インターフェロン治療などで、ウィルスを排除できる薬が開発され、治る人が増えてきました。これからの薬のより向上によって、私も治るのではないかと、期待を持っています。甲状腺の異常、シェーグレン症候群をずっと患ってきました。それが原因で、今年目がぶどう膜炎に罹り、緑内障を発症してしまいました。失明の危険を伴う状態でしたので、内科医が慎重になり、インターフェロンの治療は、暫く見送るということになってしまいました。GOT、GPTの数値は良くなっているのですが、肝炎発症から22年の年月は、体に大きな負担を与えていると思います。 |
| 44 | H21年４月から強力ミノファーゲンを毎日打っています。今までも、数値が上がると強ミノを打ってきました。ウルソも服用した時期もありました。医者は、強ミノが効いていると言っています。金額もそうですが、毎日通院することは、仕事にも支障をきたし、仕事柄、人目を避けながらの治療は、非常に辛いです。かといって、インターフェロン療法をするには、仕事を辞めなければならない状況にあり、医者にインターフェロンを勧められていますが、現実は無理です。もう、血管も見えなくなってきていますので、生活の保障がない限り、今の私には、インターフェロン治療はまだ「夢」です。 |
| 45 | 一度は感染して肝炎治療をしましたが、治療後は健康状態も良く、数年前までキャリアとして過ごしてきました。いつウィルスが活動を始めるのか、びくびくしながら生活してきました。幸いにして、ウィルスは現在マイナスですが、絶対大丈夫という保障はありません。これからもこのままウィルスがマイナスのままであるように祈りながら、生きていきたいと思います。 |
| 46 | 肝炎になって20数年。なかな治らない病と知るにつけ、改めて肝炎の恐ろしさを感じる毎日です。 |
| 47 | 今回が３回目の治療となるが、過去２回のインターフェロンだけの治療と違い、薬に体が慣れて、楽になったのと違い、ひとつ副作用が軽くなったと思えば、別の病状が現れ、来年の８月一杯まで、このまま仕事は続けられなくなるのでは（時間も短いし、周りに助けられながらやってはいるが）？と、いつもそういう思いになりながら、仕事をしている状態です。自分は治りたいので、この治療を頑張っているんだろう？と、自分に言い聞かせながらも、一方では落ち込んだり、精神的に不安定です。 |
| 48 | 嫁に、「うつったら困るので、孫にキスとかしないで下さい」というような事を言われた。血液でしか感染しないというのを、もっと伝えてほしい。 |
| 49 | インターフェロン治療をＨ８年に６ヶ月、H18年に５ヶ月受けました。現在はウィルスが消え、経過観察中です。 |
| 50 | 原告を守る国の責任上、支援法の内容が最も関心がある。 |

| No. | 問3-10-2　最近数週間の気持ち－その他 |
|---|---|
| 51 | 感染時より良い医師に恵まれ、完全には治りませんが、いろいろ相談にのってもらい、インターフェロンの治療も３回受けることができました。主人にも、精神的にも経済的にも助けられています。やはり、肝臓専門医に診てもらうのが、一番安心だと思います。最新の情報も教えてもらったり、講演会なども開いてもらっています。大変有り難いです。病気になってしまった以上、相談できる人がいることと、経済的な安心が一番の問題だと思います。 |
| 52 | 今の体調がずっと維持でき、生涯終わることが一番ですが、肝機能も年と共に低下する。それがどのような状態になるのか、すごい不安です。今は家族の心配もでき、安心していられますが、進行した時の自分は耐えられるだろうかと、今は原告の人達とメールでお互いに話している。今は、先の事は考えずに、１日１日を大切にしています。 |
| 53 | １年のインターフェロン治療を、今年６月に終了。ウィルスは残念ながら消えなかったが、落ち着いた現状が、この先ずっと続けばいいと思いながらも、やはりチャンスがあれば、ウィルスを完全に消したいと思っています。100%に近い完治のできる薬を作っていただきたいです。 |
| 54 | 最近は、２回目のインターフェロンをいつ頃始めるかと悩んでいます。主治医には、患者自身に任せる（数値が悪くないため）と言われている。明日にでも始めたい気持ちだが、今現在のような体力に戻るのには、投与の何倍もの月日がかかるので、それでためらっている。そのため、気持ちが落ち込んでいる。 |
| 55 | 今現在、インターフェロン治療で治癒したので、こういう回答が私にはできますが（問3-10-2）、現在も病気を抱えている方は、これから将来、病気を受け入れて、前向きに生きていくことになるのです。そう考えると、１日でも早く、１人でも多くの方に治療を受けてもらい、治っていただきたいと思います。 |
| 56 | 私の38年間を返して下さい。私の健康を返して下さい。肝がんの手術を２月に受けてからは、検査結果を聞くまでの気持ちは、以前とは全然違います。切羽詰まった状態で、後がありません。完治は考えられず、現状維持が最善の方法です。また「がん」ができていたらどうしようとか、死への恐怖がとても強くなっています。いろいろ考えて悩んでもしようがない。精一杯生きようと考えるようにしています。そして、１週間に３回のミノファーゲンの注射と薬を飲み、体力の回復に努めています。 |
| 57 | 完治のため、２度目のインターフェロン治療中です。期間が１年～１年半と長く、体調に波があり、しんどい時はくじけそうになります。ペグの注射を打つと具合が悪くなり、高い治療費を払って、何をしているんだろうと思う時があります。予約でも、病院はとても混んでいるし、毎週行くだけで疲れる。周囲の理解と協力がないと、治療を受ける事は難しいです。 |
| 58 | なるようになる。 |
| 59 | 現在、３度目のインターフェロン治療（72週）の60週目で、ウィルスは16週目よりずっとマイナスのため、この治療でのウィルス排除に望みをかけています。主治医からも、今回は著効できると励ましてもらっているため、精神的には安定していますが、もし失敗であれば、かなり落ち込むと思われますので、心境の変化は治療結果に左右されることを、付け加えたいと思います。 |
| 60 | 和解後より、国、企業に対する腹立たしさが強くなってきた。これから先の体調を考えると不安になる。何としても、治療費の無料化と健康手当てのような支給の２点を、是非考えてほしい。 |
| 61 | 老いた親に対する、子としての責任を優先したい。一番必要な時期に、子供の父親との離別は、我が身から下ろしたくない荷物なのですが、そんな事情をおして、インターフェロン治療に入る事を強要されるかのような助成費のあり方には不満です。今の現状は、各自の努力や体力により異なるが、国の不備により、皆一様に感染させられたのですから、一様に被害者としての手帳を下さい。医療が何であろうと、肝炎のためのものならば、費用が無料になる配慮を、国で弁済していただきたいです。過ぎた苦しみの日は戻りませんが、せめて、自身が受けたい方法を、無料で選択させてもらいたい。 |
| 62 | 肝炎対策基本法が成立した。すべての方々に感謝したい。安心して治療に入れる日が、早く来ることを願います。 |
| 63 | ・インターフェロンが効果のない人には、新薬の開発に力を入れてほしい<br>・肝癌で苦しんでいる人の救済に、力を入れてほしい<br>・障害手帳を交付してほしい<br>・治療費の無料化を是非おねがいします |
| 64 | 病気の方は現在落ち着いているが、少しずつ進行しているようで、将来への不安が大きい。 |
| 65 | 弁護士の先生方をはじめ、多くの方が体の事を心配して下さったり、「一刻も早い治療を」と言って下さるし、自分でも分かっているのですが、目の前の家族（夫）が病気だと、自分の事は後回しになり、毎日しんどい中で、働くことさえままならなくなると、このまま死んでしまうのか、後に残った夫はどうなるのだろうと、肝ガンで亡くなった父の最後の姿が浮かび、不安で押し潰されそうになります。 |
| 66 | インターフェロン治療中で、５ヶ月目に入ってから、抜け毛、皮膚の痒さなどの副作用が出てきて、かなり辛い日々があります。ウィルスは未検出（４ヶ月目で）になったので、頑張らなければと思います。あと６ヶ月インターフェロンを受けるのは、かなりの気力と体力が必要です。 |

| No. | 問３-10-２　最近数週間の気持ち－その他 |
|---|---|
| 67 | 近頃は、肝炎とも長い付き合いになったし、年もとったので、これも運命だったのかなと、少しは思えるようになった。肝炎の完治は無理でも、これから先はうまく共生して生きて行こうと思う。「そのうち、すごい薬が発明されるかもしれないな～」なんて、ちょっと気持ち的にも、穏やかになったりしている。 |
| 68 | 私の場合、治りにくい種類のＣ型だそうで、過去２回程治療をしましたが、マイナスになってもすぐにまたプラスになります。おまけに太っているので、ますます治りにくいらしいです。このまま同じ状態なのかなと思ったら、辛い時もあります。 |
| 69 | インターフェロン治療をしてウィルスは消え、今もその状態は続いているが、疲れやすく、無理ができない。仕事も最低限の量（時間）でしている。本当は、働かずにいるのが良いのだろうけれど、収入と働くこと（社会生活への参加）は、私には必要だと思う。夫も定年間近で、老後の不安も増してきて、笑って日々を過ごせていないのが現状です。 |
| 70 | 目の病気を持っています。一度インターフェロン治療を受けましたが、眼圧が上がり、怖くなって24週で諦めました。今は強ミノを週２～３回、ウルソ、グリチロンを服用しています。これから先も続けていくつもりですが、いろんな面で不安がないと言えばウソになります。 |
| 71 | 今は、あとどれくらいの命なのか、分かった時点で早く知りたい。そして、残された時を悔いのない日で終わりたいです。医学の進歩で、肝硬変など治せる薬が見つかればいいのですが・・・。私にはインターフェロンもダメだし、いつ再発するか。それまでに良い治療が見つかれば・・・。でも、あまり長生きすると、今後の治療費が払えなくなり、子供達に負担がかかるならば、早く死を待つ方がいいです。 |
| 72 | インターフェロン以外に完治の方法はないのでしょうか。どの段階でインターフェロンを使用したらいいのか、副作用は？又、日常の食生活などで注意することなど、気軽に相談できる医療体制を確立してほしい。 |
| 73 | Ｃ型肝炎から突然肝臓ガンと知らされ、とうとう来るべき時が来たのだと腹をくくりましたが、本心は、今後病気との闘いを思うと、全身の血が引く思いでした。私はまだインターフェロンを投与していません。副作用が怖いのです。沢山の副作用を考えると、治るより、自分の人生がここでまた狂わされてしまうのではないかと、すごく不安です。年齢から言うと、インターフェロンは30%の可能性があると言われています。もう一度話を聞き、来年度にインターフェロン投与と覚悟を決めました。 |
| 74 | インターフェロン治療により、１年に一度の健診で良くなっている今の状態を感謝している現在において、不安がないわけではないが、知った時々の状況では、感じ方もだいぶ変化しているように思う。 |
| 75 | 治療病院も変わり、脾臓を摘出し、血小板を13万まで上げ、インターフェロンに入り16週目です。完全治療に向かって頑張っています。まだまだ分かりませんが、笑顔で楽しい生活ができることを祈っています。 |
| 76 | 12/7より入院し、インターフェロン治療を初めて行うことになりました。効くか効かないかより、今の状態で、落ち着いて仕事や家事ができる体に戻れるか不安。今より悪くならないことを望んでいます。 |
| 77 | 元の体を返してほしいと思っても、仕方のないこと。人生を狂わされたとも思ってみても、仕方がない。どの質問にもそう思います。11月に考えた時と、今日12月14日に考えた気持ちもそうですが、くよくよしていても仕方がないので、明るく前向きに生きようと思います。時にはしんどくて、起きあがるのが辛い時もありますが、誰も皆少しは苦しい事があるので？と思い、自分のできる事は（親の介護を含め）、やっていこうと思っています。伯父が亡くなり、伯母の事をみていたので、遅くなりました。 |
| 78 | 常に希望を持ち、あきらめずに治療に取り組んできたことが、完治につながったと思います。入院中に、昭和から平成に変わったので、闘病生活は20年に及んだのかと、今さらながら、よく頑張ったと思わずにいられません。ただ、主治医に「これ以降は大丈夫。でも、この時点までにスイッチが入ってしまっているかもしれないので、経過観察はかかさずに」と言われ、完治したからと有頂天にならずに、油断することなく、経過観察を怠らないようにしようと、心に言い聞かせました。あと、主人に感染していないかと、主人が体調不良を訴えるたび、心配になります。 |
| 79 | 週２回のインターフェロン、強ミノの点滴は大変です。点滴後、ひどい寒気、微熱。やっとの思いで家路につきます。もちろん、家事一切できる状態ではありません。当日は、何もかも済ませて病院に出かけます。帰宅したらすぐに床に入ります。体の苦痛ばかりか、医療費も１回１万５千円。それに交通費と、何もかも大変です。 |
| 80 | 最初から闘ってこられた原告団の皆さまには、心から感謝しております。 |
| 81 | 医師から治療は移植しかないと言われてから、「まさか、こんなに早くそこまで」という思いと不安、迷いで毎日悩ましい日々です。 |
| 82 | 新しい生命保険に入れない。 |
| 83 | 幸いにして、インターフェロン治療でウィルスが消えたので、現在は肝臓に関しては心配していない。 |

| No. | 問3-10-2　最近数週間の気持ち－その他 |
|---|---|
| 84 | 出産の翌日に肝炎の疑いがあると言われ、治療をし続けてもいっこうに良くならず、この子が３才になるまで、５才になるまで生きていられるのだろうかと、毎日不安でした。自分の体調が悪いのは、もちろん辛いことでしたが、こんな体で主人や娘に苦労をかけていることを思うと、胸が張り裂けそうな思いで、自分が押し潰されそうでした。金銭的な心配をせず、治療に専念できるよう、そして、心のケアもできるような体制が、整ってくれることを祈ります。 |
| 85 | 家族（子供）の協力がない。姉２人とその子供達で妹（本人）をみているので、子供達に対し、腹立たしく思う。 |
| 86 | いずれにしても、国民病という汚名返上。二度と薬害が起こることのないよう、願うのみです。 |
| 87 | 現在、２度目のインターフェロン＋レベトール治療中で、今のところウィルスは検出されずです。残す６ヶ月の治療を絶対に頑張って、もとの健康な体になりたいです。副作用が辛いですけれど、負けません。 |
| 88 | 元気なうちにしたいことをし、見たいものを見て、生きていこうと思う。先が見えない感じがする。将来がないように思う。 |
| 89 | 2009年10月１日から２回目（１回目はＨ７年）のインターフェロン治療を開始したところであるが、経過観察の検査で、私のウィルスはインターフェロンに抵抗性が強いかも知れないと主治医から聞かされた。一応１年半継続治療するつもりでいた方がいいとのことで、治癒の可能性は、約70％とも言われている。治癒の可能性にかけて、今後も治療を続ける気持ちでいるものの、様々な副作用が見られる中で、治療期間最後までがんばれるかどうかという不安と、治癒しなかった時の失望を想像すると、複雑な気持ちで毎日を過ごしている。 |
| 90 | 将来、肝癌や肝硬変になるのではないかと不安に思っていますが、一応治療も終わり、ウィルスがなくなり、少し安堵しています。 |
| 91 | 週１回の休みは、通院のため、上司に都合をつけてもらい取っています。休日といっても、治療のためだけの休みで、自分の時間はなく、精神的ストレスが溜まります。仕事をせずにはおれず、元々弱いところを人に見せるのは嫌いな人間なので、無理にでも元気なふりをしていることに、疲れてしまうことがあります。肝炎だと保険に加入することも難しく、肝炎以外の病気にかかった時など、年齢的なことを思うと将来不安です。 |
| 92 | 病気の進行が病気になります。 |
| 93 | 現在は、身体がだるいのか、そうではない理由でしんどいのか、どちらとも分からないので、もう気にしない。下半身マヒなので、現在両杖で歩行。 |
| 94 | いつ肝硬変に進んでしまうのか、毎日気になります。恐ろしいです。 |
| 95 | これからの病気の進行状態が心配です。Ｃ型肝炎が、風邪のように治る病気でも怖いのに、死ぬかも知れない恐ろしい病気をうつされたらと、思われているんじゃないかと思ってしまいます。病気が分かった時、主人にうつるんじゃないか心配だと言うと、主人は笑って、「うつるんやったら、もうとっくにうつってるやろ」と言ってくれました。知らずに過ごしてきた時期がありましたが、家族の誰にもうつっていなくて幸いでした。Ｃ型肝炎について、国民の方々には、簡単にはうつらない病気だと知ってほしいです。私が言って廻ることはできないので、テレビなどで、広告のように説明を流してほしいです。 |
| 96 | ２～３年前より体調がすぐれなかったけれど、最近は旅行などに行き、いい気を取り入れようと努力しています。今のところウィルスは落ち着いています。またいつ出るか不安ですが、頑張っています。病院の先生は大丈夫とおっしゃいますが、こればかりは分からないと思います。 |
| 97 | 死は恐ろしい。自分から死を選ぶことはしたくない。病気になったからには、病気とうまく付き合って前向きに努力するしかないと考え、諸々の病と闘っていく所存でございます。 |
| 98 | 不況により、自営業が大変なのですが（経済的）、十分に仕事ができないのと、体が十分ではないので、転職もできません。すぐ疲れます。心臓も弱ってきていますし、死んでしまいたいのですが、母が94才で存命中なので、子供として死ねません。体が弱いことが、本当に苦痛です。自分は労働するのが好きな人間なのです。 |
| 99 | H20年10月～H21年３月までインターフェロンの治療を受けて、現在ウィルスは検出されない状態が続いていて、少し体力が戻ってきました。ただ、血小板は８万台で、10万を突破できないでいるのが、唯一気になるところです。 |
| 100 | 治療のため、病院以外家で過ごすことが多いため、一時電話に出るのがイヤ、人に会うのがイヤ、もちろん外出もできなかったので、友達からも遠ざかり、自分に自信がなくなってきたと思う。 |
| 101 | ・　数値が悪くなっていないか気になります<br>・インターフェロン（リバビリン）をもう一度受ける時期が、近づいているように感じます<br>・仕事の責任があるので、後継者として子供に仕事を継いでもらうことにした |
| 102 | 家庭内の生活の中で感染を考えると、大変気を使う。何かの拍子にに出血した時、キズ絆は何時もポケットに持って歩く。22年間１回も旅行に行くことができなかった。体力がなくていかれない。 |

| No. | 問3-10-2　最近数週間の気持ち－その他 |
|---|---|
| 103 | 私は感染がすぐ分かり、早期治療によって治したけれど、感染した時に抱いていた死の恐怖等の感情を、現在も持っている人達。私は体調不良はなかったけれど、普通に健康な生活を送れない人達がいるのは、けっこう辛いことです。 |
| 104 | くよくよしないように心掛けている。 |
| 105 | 実母の病状が、最後の看とり段階になってきたが、自分の病状が悪化した場合の不安。１人親で１人娘である私は、最後までお世話して見送りたいと切に思う。私自身は、周りの家族やヘルパーさん、その他に助けられながら、楽しい時間を少しでも作るようにしているが、楽しむ時間の限りが少なくなった。このごろは、疲れや不安が重く悲しい。つらい検査や治療が怖い。死ぬことについては怖くない。少しでも子供の成長を見ていたい。 |
| 106 | どれくらい病状がでたら、治療に入ればいいのか分からない。副作用等の事を聞くと、このままでいた方がいいのかと思う。 |
| 107 | 自分の体よりも、娘の事ばかりで頭がいっぱいです。まだ悔しい思いでいっぱいです。許せない思いでいっぱいです。 |
| 108 | インターフェロン治療を受けることについて不安があるので、相談にのってくれるカウンセラーみたいな人がほしい。色々と不安な事や疑問を解消したい。 |
| 109 | インターフェロン治療を受けて、副作用に苦しんで、どうしてこんな辛い治療なのか。毎週熱がでて、食事がとれず細くなり、他人が見ると病人と分かり、電車の中でも避けられるように感じた。どのようにしたら副作用が軽くなるのか。運動を取り入れたり、食べ物を無理して食べるようにしたが、それで１年間続けたが、体力ギリギリまでしないとだめだと思った。ウィルスはとても強い。無理して元気なふりをしてきたが、体力的にも精神的にも本当に限界だった。 |
| 110 | 私もこの数年の間に、インターフェロン治療になると思うけれど、現在仕事をしており、副作用が心配で、なかなか受ける決心がつかない状態である。 |
| 111 | とにかく体がだるい。食欲がない。病気とうまく付き合っていこうと、明るく笑顔でいようと思って生活しているけれど、いろんな事を考えると不安でたまらなく、気持ちが落ち込んでしまう。その繰り返し。インターフェロンの治療を来年の夏から始めようと思う。けれど、副作用が体にどんな影響があるのか考えると辛い。ウィルスを排除するのが効かないタイプだ。体力的な不安もさることながら、精神的な苦痛の方が大きい。インターフェロンの治療を受けて、ウィルスが排除されたら完治すると言われているが、治療を受けてみないと、治るか治らないか分からない。自分の体を痛めないといけない治療を受ける。何も知らない人に、治療を受けない人に、そんなに簡単に「治療を受けて完治する」なんて言ってほしくない。副作用が少ない治療法ができてほしいと、強く臨む。 |
| 112 | 精神と肉体と調和させて、生活していきたい。運動も徐々にできるようになりたいし、やっていこうと思っている。食事療法はますます進化させていきたい。生き方を自分が選択していこうと思っています。 |
| 113 | 急性肝炎で入院してから、ついこのままで慢性肝炎だと思って、定期的に血液検査をしていたのですが、この問題がテレビで大きく取り扱うようになって、主治医から、もっと詳しい検査をしたらと言われ、その結果が自然治癒で、いつの間にか治っていた事にとても驚き、同時に喜びとホッとした気持ちがあり、とても信じられませんでした。他の人には本当に申し訳ないのですが、今は死の恐怖から解き放された気持ちで、第２の人生だと思って、大事に生きていこうと思っています。 |
| 114 | この質問は、完治している人には無意味です。人それぞれいろいろな人生を歩んでいきます。私も原告団ですが、過去を振り返っていません。 |
| 115 | 現在、ウィルスの検査ではーで、肝機能の検査でも正常値なので、普通に生活しています。 |
| 116 | 弁護団の先生方、原告団、支援者に感謝しています。でも、まだ和解になっていない原告もおりますので、１日も早く和解ができるようにして下さい。法案は皆の努力でできましたが、どんな内容かは、まだこれからだと思いますので、原告団の１人として、今後もできる事に参加させて下さい。私は、自身の足元を、またつくり直します。正直な気持ち、つらいです。 |
| 117 | 薬害肝炎と知ってから、精密検査を受けたら、肝硬変に進行していることが分かり、ショックで涙が止まらなかった。運良く大学病院で治験を受けることになり、現在も治療中である。何もしないでただガンを待つよりも、何かにすがって、少しでも生命を長らえたいという気持ちでいっぱいです。検査結果にドキドキしながら、本当にウイルスがなくなるのか、不安の中での生活です。通院のたびに主人は仕事を休み、家族に迷惑をかけていることが負担になる。これからの生活も不安がいっぱいだが、いろんな人に支えられていることに感謝しながら、前向きにいくことでしか、希望が持てないのがつらい。早くこの病気が治る治療が見つかることを、常に願っている。 |
| 118 | 最近、ガンらしき影が発見のため不安です。今度の診察で説明がある。 |
| 119 | 現在はウィルスはーなので、肝臓のことでクヨクヨすることはありません。うつ症状に伴う身体的疲労がしんどいです（服薬も含めて）。 |

| No. | 問３-10-２　最近数週間の気持ち－その他 |
|---|---|
| 120 | 今でこそ落ち着いて人生を考えられる。月日が流れたせい？私のような人が、こんなにも多くいらした現実を目の当たりにして、他の人もがんばっているのだから、私もがんばれるところまで。この目で見られる、この手の届く大切な人のために、笑顔でやしさくがんばろうと思います。 |
| 121 | ペグイントロンとレペトール併用療法を受け、55週目。治療がこれほど辛いとは思っていなかった。白血球、血色素ともに減少。６ヶ月頃から甲状腺の機能低下と更進を繰り返している。もし再発したとしても、もう治療はしたくない。治療する前の方が、体は悪くても今よりは動けた。 |
| 122 | 副作用が心配だが、治療をして、これから残された時間を前向きに生きていきたいと思う。 |
| 123 | 現在は、完治と言われているが、果たして本当なのか・・・と思う。将来、私が年をとり弱っていくと、又、肝臓が悪くなるんじゃないかと思っている。この病気が本当に完治していたかは、私が死ぬ時にはじめて分かるのではと思っている。 |
| 124 | インターフェロンは７月で１年間の治療が終了しました。先日、６ヶ月目の検査で検出せずの結果が出て、ほっとしています。まだ３ヶ月に３本検査に行くのは、やはりイヤですね。毎月の検査、毎週の病院通いから解放されたのは救いですね。 |
| 125 | こんなに苦しい病があるということを知りました。まるで、ボディブローみたいに後で効いてきます。 |
| 126 | インターフェロン治療は終わったけれど（１年）、味覚障害で味が分からなくなるとは思わなかったので、治療前においしいものをお腹いっぱい食べておけば良かった。味が戻るのには、たぶん来年２月から３月頃までかかるだろうと言われている。夏もずっと１年中皮膚の乾燥、あかぎれ、ひび割れ、薬、クリーム、リバテープが手放せない。筋肉のこわばりもあるけれど（リウマチ）、食べ物がおいしくない方が辛い。 |
| 127 | 複数の持病があるためいろいろな制約を受け入れ、生きてきましたが、Ｃ型肝炎という病気がまたひとつ増え、心身共に疲弊した感があります。これから先、何年自分で動くことができるか、生きることができるか。体調の悪い時は、いろいろと考えるようになりましたが、病状が悪化しないよう、家族のため、自分のため、自己管理をこれからもやっていこう、やらなければとも思います。 |
| 128 | 来年、インターフェロン治療を受けるために、今は検査など受けているところです。３度目のチャレンジです。今回は近くのかかりつけ医と肝臓専門医に治療をお願いしました。やはり、専門医に診てもらえるのは、心強いし安心です。なんだか治りそうな気がしています。頑張ります。 |
| 129 | 完治しているので、前向きに過ごしている。 |
| 130 | 良い結果が続いていることはとても嬉しく、病院への通院がとても大変で、仕事もハードなので、周りに迷惑をかけることも多々ありました。 |
| 131 | 自分自身しっかり受け入れて、前向きに治療に専念しています。私自身「のさり」だと思い、いろいろな経験（本当はしなくてすんだことですが・・・）が今後何かにプラスになればと思っています。 |
| 132 | ２度目のインターフェロン治療途中より、うつ状態になり、身体的には腰を曲げ、手は握り拳状態で歩行もかなり困難。会話もしなくなっています。泣いてばかりだったのが、最近少しは笑顔も出始めたものの、身体症状は相変わらずなので、本人はつらい精神状態が続いているようです。 |
| 133 | 肝炎が完治してホッとして、２年目に乳ガンになりましたが（58才でＣ型肝炎、60才で乳ガン）、現在は再発もなく（８年間）、明るく前向きに行きたいと思います。 |
| 134 | 小学校５年生で告知を受け、高校１年の時にインターフェロンを受けました。おかげで今は健康を取り戻し、病気だったことを忘れるときもあります。このアンケートを見ると、今も苦しんでいる方達に、早く健康になってほしいと願うだけです。 |
| 135 | 現在、ペグインターフェロン治療中。８週で－になり経過観察中。再燃を怯えているが、医者レベルの医療従事者用の情報開示がしっかりないと、患者は不安が多い。何で－の者が何％あり、その場合はどういう治療を行うのか。最悪の場合は何％で、こういう治療を行うなど、医学書を事前に購入（40,000円分）し、副作用をあらかじめ学んでいたため、あらゆる副作用について、即対応可能となった。これは非常に大きいものである。患者自身が必死に病気の勉強をしっかりして、専門医と同じレベルまでもっていかなければならないと、今日の病気を通して感じている。 |
| 136 | 私の場合、感染してもう30年程になるけれど、幸い症状が軽く、やもすれば病気であることすら忘れる程でした。つらくて大変な思いをしている方も知っています。自分は幸せな方だと思います。 |
| 137 | インターフェロンの治療が効かず、今はただ新しい治療法を待つ毎日で、いつ悪くなるかとても不安。子供達の事が一番心配。 |
| 138 | 生きている事が不安と思うのは、とても葛藤であり、憤りである。 |

| No. | 問3-10-2　最近数週間の気持ち－その他 |
|---|---|
| 139 | 薬害肝炎救済法、肝炎対策基本法等で、法の整備がある程度整ったことにより、将来の不安が多少解消され、安心感が出てきました。 |
| 140 | 私は病気への心配が募り、うつ病になってしまいました（一年前に診断されました）。家族にも迷惑をかけ、毎日毎日、体が動かないことを悔しいと思い、生活をしています。こんなにきついなら、死んだ方がいいと考えることもあります。 |

## 問6-2 フィブリノゲン製剤ないし第Ⅸ因子製剤を使用した医師に対して

| No. | 問6-2 フィブリノゲン製剤ないし第Ⅸ因子製剤を使用した医師に対して |
|---|---|
| 1 | C型肝炎に感染することを知っていたのならば、許せない。 |
| 2 | 国から許可が出ていれば、使用しても仕方がなかったと思う。 |
| 3 | 当時使用した医師は、責められないが、その原因が明らかになった今、素直に使用を認め、協力する医師であってほしい。ごまかしたり、協力できない医師は許せない。 |
| 4 | 医師は国、会社に比べて、責任は相当軽い。 |
| 5 | 当時、最善の処置をしてもらい、命を助けてもらったと思っている。肝炎感染止血効果なしの認識や、製薬会社との関係が分からないので・・・。 |
| 6 | 医者から輸血でと言われ、薬害訴訟の事は私には関係ないと思っていました。平成20年に突然病院からの通知で、フィブリノゲンを使ったと知りびっくりしました。 |
| 7 | 生存するための手術の際の事故なので、特別な感情はありません。 |
| 8 | あの当時、山梨では使用することが当たり前だったので、仕方がないと思っています（私のタイプの白血病のみ）。病気を治そうとしてしたことで、肝炎になることは皮肉な結果ですが、病気は治ったので感謝しています。 |
| 9 | その当時の最適な治療をしてくれたので、個人的には意見はない。むしろ、命を救ってくれて感謝している。 |
| 10 | ミドリ十字は、色々な薬害を起こしている会社なのに、どうしてここの会社と取引をしていたのか、聞きたかったことです。 |
| 11 | 命を救うために、ベストを尽くしてくれたと思う。当時は、医師もフィブリノゲンが有効だと信じて使用したはず。医師に対して、全く恨みはない。 |
| 12 | 当時はやむを得ないと感じた。 |
| 13 | 国で許可したので仕方がない。 |
| 14 | 使用した止血剤が悪い事を、知らなかったのですか？知っていた人が、近くにいたのではないですか？などの気持ちになるほど、心がひねくれました。 |
| 15 | 殺したいほどの憎しみがある。当時、体調の不具合や治験の診査を無視した医者に対して、せめて家に直に謝罪をしてほしい。 |
| 16 | 医師は、フィブリノゲン製剤を投与したら、どのような結果になるのか、知っていたのではないかと思っています。 |
| 17 | 認識があったかどうかは分からないが、止血剤として使わなければ、死亡すると考えたら、やむを得なかったと思う。 |
| 18 | フィブリノゲン製剤に対しての勉強を、もう少ししていてほしかった。 |
| 19 | 緊急時の使用でやむを得なかったと思う。 |
| 20 | その時、フィブリノゲンを使用しなければ、私の命が助からなかったのであれば、仕方がなった事であったし、感謝するべきですが、ちゃんとした説明がほしかったです。 |
| 21 | 弛緩出血だったので、止血剤を使用したのは仕方がないと思ったが、なぜ血液製剤を選択したのかと思う。もう少し、様子を見てから使っても良かったのにと思ってしまう。 |
| 22 | 当時は、普通のことだったのだと思う。その後、肝炎の治療を親身になって下さったので、感謝している。 |
| 23 | 薬の使用、感染の事、今後の事について、自らきちんと話してほしかった。厚労省の批判だけではなく、自ら医師としての責任を、もっと自覚しほしい。 |
| 24 | 医療に従事されている方々に、こんな惨事は、もう二度と絶対に起きてはならない事です。これから先、長い年月の間に、また同じ事が繰り返されたとしたら、使用するのは最終現場である医療機関です。新薬ができたら、まず、我が身我が子に置き換えてみて下さい。はっきりとした、しっかりとした安全、安心ということを、人の大切な命を預かっているということを、お願いします。 |
| 25 | 「止血のために、当時は良かれと思って使用した」ということでした。それで命拾いをしたことは事実ですが、その出血の原因は何だったのかと今でも思います。 |

| No. | 問6-2　フィブリノゲン製剤ないし第Ⅸ因子製剤を使用した医師に対して |
|---|---|
| 26 | 止血剤として国が認可している薬だから、医者は信用して使っていたと思う。別に、医者は悪いとは思わない。 |
| 27 | 1982年に出産により、非加熱製剤のフィブリノゲン2g使用。なぜ必要だったのか、憤りを感じた。1977年に、アメリカでは中止されている。多くの人の人生を狂わせてしまった責任は、どうとるのか。 |
| 28 | その時の最善を尽くしてくれたと思えたので、感謝している。 |
| 29 | 手元にカルテ一式保管されていた事実を踏まえて、各種報道機関で公表されていたものですから、患者側への使用報告がほしかった。当方の追求調査で判明した。医師への信頼感を失う結果となった。 |
| 30 | もっと処置に責任を持つ。 |
| 31 | フィブリノゲンの使用については、一度も説明がなかった。止血のためにやむを得ず使用したとしても、内容を正しく説明してほしかったです。 |
| 32 | 「心臓は助かったのだから・・・」と、先生はおっしゃるけれど、じゃあ肝臓はどうなってもよかったのですか？今も手術前に受けた「心疾患説明図〇〇大学医学部第一外科」が手元にあります。フィブリノゲン製剤の事については、一切触れていません。書かれている事は次の事だけです。<br>①心室性頻拍→突然死、生活制限<br>②カテーテル　テイピング　右心室　三尖弁～流出路<br>③発作手術中に起こる、心表面直接部位が決定<br>④人工心肺　心内幕？<br>⑤冷凍手術　心筋切除<br>⑥三尖弁の手術の可能性　ペースメーカー |
| 33 | フィブリノゲン製剤を使用したにもかかわらず、使用していないと言われてしまった。20年も前の事で、忘れてしまったのかもしれないが、目の前が真っ暗になってしまった。幸い、別の病院に入院した時のカルテがあったので、給付金を受けることができた。使用した事を、隠さずに言ってほしい。 |
| 34 | 私の場合、医療ミスで因子製剤を使われたので、医者を訴えたい気持ち。 |
| 35 | 医師自身も薬の勉強をしてほしい。 |
| 36 | 出産時、命を救うためには仕方がなかったと思うが、悔しいです。 |
| 37 | 投与時、医師は危険製剤であることを知らされず、使用したと考えられ、責任は問えないと思われる。しかし、その数ヶ月後、数年後に、フィブリノゲンが肝炎の原因と判明し、それを認識した時点から、投与した患者に対し追跡し、事後対処してほしかった。 |
| 38 | 当時はノンＡノンＢと言われていた時代で、使用は他に手段がなかったので、仕方がないと思う。 |
| 39 | 医師に対しては、命を救っていただいたことを、非常に感謝しております。でも、薬害になることが分かっていたら、他の方法で助けてもらいたかった。 |
| 40 | 仕方がないとは思いますが、使用するにあたって、説明がほしかったです。 |
| 41 | 418名リストの中に私の名があり、肝炎になった原因が分かりました。院長には、早く知らせてほしかったです。残念です。悲しいです。 |
| 42 | 昭和57年当時に、止血剤としては、仕方がなかったものと考えます。 |
| 43 | あの時は急で、そうせざるを得なかったかもしれないが、医師は、この製剤の危険性を知っていたのか知りたい。 |
| 44 | 説明は聞きましたが、その状況が良かったかどうかは疑問です。 |
| 45 | 体に危険が及ぶことが分かっていて、使用したとしたら、許しがたいことだと思う。 |
| 46 | 使用当時は、多く使用されていたとはいえ、他の薬剤があったことは間違いないので、もう少し慎重であってほしかった。 |
| 47 | 当時、他に止血剤はあったのでしょうか。医師の対応がどれほど誠実だったか、夫は語りぐさにしていました。 |
| 48 | 医師は、懸命に私の命を救ってくれた。あの状況で助けられ、感謝している。助産師は、日常的にフィブリノゲンが使用されていたと話してくれた。 |

| No. | 問6-2 フィブリノゲン製剤ないし第Ⅸ因子製剤を使用した医師に対して |
|---|---|
| 49 | 投与前に、家族の者には「肝炎になるかもしれない」と医師から言われた。しかし、生きるか死ぬかの時に何の選択肢もない。医師は、輸血のリスクを言ったのか、、フィブリノゲンのリスクを知っていたのか、どちらが聞いてみたいと思う。今後、医師は薬に対する勉強も必要かと思う。 |
| 50 | 命を救ってくれた方です。感謝の気持ちしかありません。 |
| 51 | 製剤が認可されていたので使用したのであり、特に意見はありません。 |
| 52 | 出産時、出血が止まらない中で、医者はまず、止血することを第一に考えていたと思うので、その時、医者がフィブリノゲンは肝炎の原因になるかもしれないと知っていても、使われたと思いますし、私を助けるためだったので、医者には全く恨みを持っていません。 |
| 53 | 医師に対しては、責任はないと思う。その時点では、この方法しかなかったことでしょうから、投与以前の問題だと思います。 |
| 54 | 医師は、緊急時に良く効く薬剤を使い、人命を救助したいと考えるのは、当然のことだと思います。私の場合は、出血多量で運ばれ、そこで意識低下した状態で使ったので、それは仕方がないことで、私を助けてくれたのだと思います。それよりも、出産時に、自分の時間の都合で、説明もなく、陣痛促進剤を筋肉注射した医師が許せないです。 |
| 55 | 人の命を守る立場にある医師が、国、製薬会社とグルになって隠ぺいし、私自身10数年間も放置されたことに、怒りを感じる。しかも、手術後の診察を、今後も引き続き同じ医師に依存しなければならず、患者の弱さを痛感している。 |
| 56 | フィブリノゲンを投与されてしまったことは悔しいし、悲しいけれど、その当時、死と直面していた私を助けて下さった先生に、恨みはありません。 |
| 57 | 国が認可した製剤で、医者に責任は問えない。 |
| 58 | 手術時の多量出血のための使用で、医師に対しては特に何も感じていない。 |
| 59 | 私の出血量を考えると、1992年の１月、フィブリノゲンの怖さを承知していたとされるドクターは、無理に輸血行為をしないでほしかった。意識はしっかりしていたので、副作用を教えてほしかった。 |
| 60 | ５、６年前、初めてＣ型肝炎を知り、フィブリノゲンが原因だったなんて、分かるはずもなく、意識も朦朧としていたのですが、その時の医師は、フィブリノゲンを使ってはいけないことを、知っていたのでしょうか。今となっては遅いのです。 |
| 61 | もっと安全性を確かめてから、使用してほしかった。危険な製剤であることが分かった時点で、すぐに使用をやめてほしかった。 |
| 62 | お産の時、止血剤として投与されたが、何の根拠があったのか。 |
| 63 | 医師には責任はないと思う。 |
| 64 | 結果的に、初期であるのに手術に失敗し、退院前日に大出血して、フィブリノゲンを使われ再手術。お腹はひどい傷。血液は汚れ、絶対に人には知られないようにと神経を使い、病院にも行かなくなり、健康食品を何種類か使っている。顔で笑って心で泣いているような生活でした。手術した病院に電話して、フィブリノゲンを使った事を聞き、「辛い思いをさせました」との医師の言葉を聞き、涙が出ました。私を担当した医師ではないのですが、その時は身体の力が抜けました。 |
| 65 | 大出血で運ばれたため、死の危険があり、当直の医師は助けようと必死なのが分かっていたため、止血の効果があると思われる製剤を「使用しますよ」と言われ、任せるしかなかった。仕方がないと思う。 |
| 66 | 医師個人ではなく、病院に対して責任を問いたい。 |
| 67 | 手術前の説明で、使用する可能性を聞かせてもらったが、医師としては、ベストの選択だったのだろう。少し悔やまれるが・・・。 |
| 68 | その時の最善の治療を考えて下さったわけなので。その後、肝炎感染について、書類を提出して下さったおかげで、製薬会社から主治医に、そしてすぐ連絡を下さり、早い時点で裁判も終わり、重荷を背負わなくて済み、感謝しています。 |
| 69 | 医師は知らなかったので、しようがないと思っている。 |
| 70 | 知らせてくれて、カルテも残しておいてくれて、今は感謝している。 |
| 71 | 仕方がない。 |

| No. | 問6－2　フィブリノゲン製剤ないし第Ⅸ因子製剤を使用した医師に対して |
|---|---|
| 72 | 医師は、危険性を認識して使用するべきであり、肝炎になった時、もっと適切な処置をとるべきだったと思う。 |
| 73 | 当時は認可されていたものだったので、使用については、仕方がなかったと思う面もある。当時、私は出血多量でショック状態だったため、生死をさまよい、死産してしまった。 |
| 74 | 命を最優先に行ったことと思っております。 |
| 75 | 私は34年も前の事ですので、命を救ってくれた医師に対しては、感謝しております。 |
| 76 | 他の方法はなかったのですか？ |
| 77 | 命を助けていただいたので、感謝はしているが、その後から現在まで苦しんだ。その時、死んでいた方が良かったと思います。生き方を教えてほしい。 |
| 78 | 命を助けてくれた医師に対しては、感謝の気持ちの方が強いです。しかし、フィブリノゲンが効果のない薬、危険な薬であるということを知っていたのか？聞いてみたいです。 |
| 79 | 仕事上、仕方がなかったのでは。 |
| 80 | 本当に必要な治療だと思って点滴したのか、聞いてみたい。 |
| 81 | 大量出血で、命を落とす危険があったので、やむを得なかったと思う。 |
| 82 | フィブリノゲン製剤の危険性を、どれくらい認識していたかの問題はあるものの、現場の医者として、少しは感じるものがあったと思う（多少なりとも問題があると）。フィブリノゲン製剤を使用せず、治療する方法を考えてほしかったし、医者の姿勢が問われる。 |
| 83 | 「最近、肝炎になる人が多いのよ」と言っていたということは、医師も何らかの疑問を持っていたのではないかと思います。又、その後、危険だということで、使用中止になったのに、何も連絡がなかったことには、少し無責任さを感じています。新鮮血を使用したことについては説明もあり、母子手帳、保険金請求のために記入してもらった診断書にも記載がありましたが、血液製剤を使用した事は、手術中で意識がない間に使われたこともあり、説明もなく、母子手帳等にも何も記載がありませんでした。ただ、カルテの手術記録に残っていたのが幸いです。命を救うための手術をしていただいた事には、本当に感謝しています。 |
| 84 | 許すことができない。 |
| 85 | 産科の先生は、早くに、フィブリノゲンを打っているので、検査を受けるよう進言してくれました。体調は良かったのですが、「悪かったね～、悪かったね～」と、何回も言われました。誠意のある医師だと思います。 |
| 86 | 私が使用された当時は、医師も肝炎を起こすという認識がなかったので、医師を責めるつもりはありません。私の医師は知らなかったけれど、アフターケアをして下さいましたし、訴訟に関しても協力して下さいました。使用したから、私の命が助かったのだと、今でも思いたいです。 |
| 87 | 26年前の事なので、医師もフィブリノゲン製剤について、どの程度理解していたのか？説明がなくても仕方がなかったと思う。 |
| 88 | 医師の都合で計画出産させられたことが、全ての根源だったと思うことがあります。「陣痛がないのに、入院して出産」は不自然です。その提案を拒否できなかったことが、今でも悔やまれます。医師の対応に、不満、許せない思いを痛感しています。 |
| 89 | 当時は、出血の際、効果のある薬と信じて使用していたようなので、仕方がなかった事と思いたいです。 |
| 90 | 感染はしてしまったが、フィブリノゲンを使用しなかったら、命はなかったかもしれないので、複雑な気持ちです。 |
| 91 | 出産からずっと入院（３ヶ月半）している間に、急に先生が退職してしまったことの理由、及び説明がされないまま、今に至っていることが、とても不安です。 |
| 92 | 私の場合、緊急事態だったため、フィブリノゲンの投薬に関する説明をする機会がなかったのではと、個人的に推察していますが、事前説明があってしかるべきだと思う。 |
| 93 | 止血目的で使用されたことは理解できる。しかし、肝炎が発症する恐れがあることを、きちんと伝えるべきであった。 |
| 94 | 説明もなく投与され、一生を不安に過ごさざるを得なかったことに、悔しい思いをしている。半面、命が助かったので、仕方がないかとも思う。 |

| No. | 問6-2　フィブリノゲン製剤ないし第Ⅸ因子製剤を使用した医師に対して |
|---|---|
| 95 | 心臓機能障害（弁置換）手術をした当時は、その薬、その方法しかなかったのかも知れないので、医師を恨むつもりはありません。 |
| 96 | 1986年10月に心臓手術をしました。約１ヶ月の入院でした。退院の時、担当医師は、２、３ヶ月すると身体に説明のできない倦怠感を感じるかも知れませんので、その時は必ず知らせてほしいと言われました。しかし、私にはそんな倦怠感は、何もありませんでした。それから６年目になって、近くの個人診療所で、血液検査をすぐにしましょうと言われました。心臓手術をした患者さんは、血液検査をする必要があると告げられて、その時にＣ型肝炎と分かりました。手術をした医師は今は故人ですので、フィブリノゲンを許可した厚労省と製薬会社に対して、強い憤りを感じます。故人となった医師に対しては、今は何も申し上げることはありません。むしろ、心臓手術の成功に感謝しております。 |
| 97 | 薬を使用した事を説明してほしかった。 |
| 98 | 仕方がなかったと、当時は思うようにしました。そうでないと、やりきれない。 |
| 99 | 当時は、医師も安全な薬と信じて使用したと思う。医師もある意味被害者だと思う。 |
| 100 | フィブリノゲンの使用について、知識、技術が十分ではなかった。 |
| 101 | 手術時、出血が多量だったと聞いており、止血に製剤を使用した（製剤の使用は、知らされていなかった）と思います。当時は仕方がなかったと思い、医師には特に恨みはありません。 |
| 102 | 血液製剤を安易に使用していたのなら、残念です。 |
| 103 | 産科の先生からは、一言の説明もなかった。母子手帳にも書かれていなかった。一言説明がほしかった。命が助かったんだから、良しと思いなさいと、しょっちゅう言われた。 |
| 104 | 製剤の有効性を知っていて使ったのかどうか、聞いてみたいと思うが、確認できないでいます。 |
| 105 | 当時の医師に対しては、何とも思いません。 |
| 106 | 既に亡くなっているので仕方がないが、薬のリスクを告知してほしかった。 |
| 107 | 当時、使用したことは、仕方のないことだと思いますが、その後、証明をお願いした時、病院長が、病院が使用したことも、患者に投与したことも覚えていないと言ったことに、腹立たしさを感じました。 |
| 108 | 私や家族に対し、輸血時の説明を全くしなかったことと、輸血後の血液検査も行わなかったことは、医師としての義務を怠った結果であり、非常に残念な結果だと思う。人の命に携わる医師は、きちちんと説明してほしかったです。 |
| 109 | 医師の判断で、出産時に使われたフィブリノゲン製剤。子供が誕生した喜びが一転して、その後、爆弾を抱えるとは思いませんでした。 |
| 110 | 殺したい。 |
| 111 | 出産の時の緊急の止血剤だったので、仕方がないことかもしれないけれど、たった一度の製剤で、長い入院生活やインターフェロン治療など、とても辛い人生を送り、今でもまだそんな生活をしています。 |
| 112 | 投与時は、良かれと思って使っていたと、その時の医師に聞きました。肝炎のリスクは知っていたけれど、止血をして助けたかったと、正直に話していただき、納得しました。 |
| 113 | 国と企業の問題で、医師に対しての思いは、良くも悪くもない。 |
| 114 | 当時、医師も、血液製剤が肝炎と関係があることは、判っていなかったと思うので、恨む気持ちはありませんでしたが、その後、カルテ開示、薬剤使用証明に関して問い合わせた時の態度は、まるで非協力的で、嘘をつかれたこともあり、良心の呵責はないのかと、腹が立ちました。 |
| 115 | 使用してはいけない製剤と知って使用した行為は、腹立たしく思う。 |
| 116 | その方法がベストだったのならば、仕方がないという気持ちもある。 |
| 117 | 血液製剤をやたら使用し、感染被害拡大した知識不足。責任を感じて、もっと勉強してほしい。 |
| 118 | 子宮筋腫の摘出手術は、それほどの大手術とは思わず、１ヶ月もすれば、また元の生活に戻れると信じ、主治医に託したのに、医師は、フィブリノゲン製剤の恐さなど全く認識がなかったのに、がく然とした。 |
| 119 | 医師も勉強が必要。 |

| No. | 問６－２　フィブリノゲン製剤ないし第Ⅸ因子製剤を使用した医師に対して |
|---|---|
| 120 | 多量出血のため、命の危険と比べると、フィブリノゲンの使用は、仕方がないとは思っています。しかし、使用する必要が確かだったのですか？問いたいです。 |
| 121 | その当時は、それしかなかったのでしょうか？助けていただいたのに、言えることではないのでしょうが。 |
| 122 | 命を助けていただき、ありがたく思っております。 |
| 123 | 当時は、フィブリノゲンを使用する手段しかなかったと思うし、私を一生懸命助けてくれたので、感謝の気持ちしかありません。 |
| 124 | 使っていいものか悪いものか、よく確認して使ってほしかった。 |
| 125 | 当時は、その治療が最高だとして、使用したと思う。 |
| 126 | 自分自身が、22年前にＣ型肝炎に感染した事を知らなくて、つい数年前の血液検査で分かった。その当時分かっていれば、３人目の子供を、生まれて２時間で亡くす事はなかったと思います。 |
| 127 | 亡くなられましたが、事前に、カウンセリングや気になる事とかの対話が沢山あれば、違う方向だったかもしれないと思います。 |
| 128 | 出産時、危険な状態だったので、使用は仕方がなかったと思われる。 |
| 129 | 命を助けるための事なので、しようがないとは思いますが、もうちょっと考えて使ってほしかった。 |
| 130 | 当時は、これらの薬が止血剤として、優れた薬とされていたので、使用したこと自体には責任はないと思っている。しかし、手術後に血清肝炎となっていても、それとＣ型肝炎問題が結びつかず、気付かずにいる患者もいるようなので、使用した医師側からもっと、働きかけをお願いしたいと思っている。 |
| 131 | 帝王切開時、出血多量で、「もう覚悟して下さい」とまで言われたそうです。その状況を考えれば、仕方のない事だったと思います。 |
| 132 | 私の一生を、元通りにしてほしいです。 |
| 133 | その当時としては、仕方のない事だと思っている。 |
| 134 | 産後、すぐに医師から肝臓障害を起こすかもしれないと、言われましたが、当時は何の事だか分かりませんでした。その当時、医師がその事を分かっていたなら、お産前に話をしてほしかった。 |
| 135 | 人命のためと言うが、それが本心であったのだろうか。 |
| 136 | フィブリノゲン投与の副作用は、内科の医師により報告されました。418人のリストに載っていたということで、H19.11.24に、病院より話がありました。出産時、フィブリノゲンを投与した産婦人科の医師からは、何の説明もありませんでした。内科も産婦人科も、同じ病院の医師でした。今ではカルテもなくなりましたが、時々、病院で会う機会があっても、フィブリノゲンについては、一切話がなかったです。 |
| 137 | どうして、本人の許可なく使用したのか。前もって、説明があっても良かったのではないか。 |
| 138 | 当時は、医師にも周知していなかったとはいえ、過去に疑いのある患者には、積極的に知らせてほしかった。 |
| 139 | 命を救うか、使用するのかの選択だったと言われると、納得せざるを得ませんでした。 |
| 140 | 当時の止血剤としては、最良だったのか？他の薬ではダメだったのかと思う反面、この薬で死なずに済んだと思うと、複雑な気持ちです。 |
| 141 | フィブリノゲンを使用しなかったら、私はこの世にいません。使用したことについては、何も言えません。 |
| 142 | その時の治療法としては、最善を尽くしてもらったと思っています。 |
| 143 | フィブリノゲン使用に対しての説明はなかったが、止血しなければ生命の保障がないと聞かされたので、その時は納得したつもりでした。 |
| 144 | 命の尊厳を考えれば、フィブリノゲン製剤を使わざるを得なったと思います。製剤に対しての認識は、どの位あったのかは問いたいです。 |
| 145 | フィブリノゲン製剤が体に入った次の日から黄疸になり、それからずっと具合が悪かったです。お医者さんは何も言いませんでした。国でそう決めたのでしょうか？ |

| No. | 問6-2　フィブリノゲン製剤ないし第Ⅸ因子製剤を使用した医師に対して |
|---|---|
| 146 | 当時は何の説明もないまま。５年後入院した時（違う病院）、Ｃ型肝炎だと初めて言われ、大変ショックを受けました。「なぜ、いつ、どこでＣ型肝炎になったの？」。 |
| 147 | 出産後、簡単な処置のみで、通常よりも多少出血が多かったからと、そのままの状態で分娩台の上に放置したままにされ、医師は隣家の自宅へ帰ってしまった。その際、見習いの看護学生１人が残り、その間、更に出血が続き、意識不明の状態になって、家族の訴えで慌てて治療にかかった。医師が適切な処置、経過観察等をしてくれてさえいれば、肝炎にならずにすんだはず。今回の訴訟に対しても、必要な書類提出を拒否したり、人間として許せないような人が、今でも平然と医師を（医療）続けていること自体が、絶対に許せない！！他人事のように、人命を軽く考えた国や製薬会社に対しても、同じ気持ちである。 |
| 148 | 当時の危険な状態での使用だったので、しようがなかったと思います。特に恨むことはありません。 |
| 149 | 私は重篤だったので、やむを得ず使用したのだと思う。私の場合、病院の金庫にカルテが保存されていて、とても感謝している。 |
| 150 | 発症後数年は肝炎の「か」の字も、ミドリ十字の「ミ」の字も見たくなかった。何軒も医者を廻ったが、大病院ほど驚き呆れる対応だった。 |
| 151 | 患者を助けるために、国で認定した薬品を使用した医師に対しては、何も言うことはありません。 |
| 152 | 当時は、Ｃ型肝炎に感染するということを知らずに使用したので、仕方がないと思っています。 |
| 153 | 安易に使用したことは、許せない。 |
| 154 | 当時、止血剤として、知らずに使用していたので、仕方なかった。 |
| 155 | 医師は、よく分かっていなかったのではないかと思う。今でも、婦人科ではお世話になっている。 |
| 156 | 私の出血を止めるために使用されたのだから、医師に対しては何も思わない。 |
| 157 | 使用するにあたって説明なし。使用後も説明なし。命に別状がないのに、なぜ第Ⅸ因子を使用したのか。自分（医師）の身内にも使用するのか聞きたいですね。 |
| 158 | 当時の処置としては、仕方がなかったかも知れないが、きちんと説明してほしかったし、肝臓に影響があることなど、詳しく教えてほしかった。薬害の事など最近の情報を知った上で、治療にあたってもらいたい。 |
| 159 | 命を助けてくれてありがとう！ |
| 160 | 出産直後は、血液製剤を使用した事を知らずに、輸血したことで肝炎になったのは仕方がない、治療をして治ればいいのだと、楽観的に考えていた。しかし、肝炎は急性期から慢性期へと・・・。次第に不安でいっぱいになりました。今から先、進行していく病気と向き合い、妻として母親として、やっていけるのか。肝炎は感染症の病気であるがゆえに、その苦悩は筆舌しがたいものがあった。この20数年間、助けていただいたことを感謝するよりも、こんなに苦しむのだったら、なぜあの時に死なせてくれなかったのだろうという思いです。特に薬は、人を幸せにも不幸にもするものです。製薬会社との馴れ合いが、結果原因となります。私達のような患者をださないように、取り組んでほしいです。 |
| 161 | 当然のように使い、患者を無視し、使った事さえ知らされなかった。憤りを覚えた。 |
| 162 | フィブリノゲン製剤を使用せずに、救命する方法がなかったかどうかを問いたい。 |
| 163 | 緊急安全情報を早く知っていてくれたら、使われなかったかもしれないと思うと残念です。早く情報を知る努力をしてほしいと思う。 |
| 164 | 血液製剤を使用されたことは、訴訟を起こした時、カルテを見て初めて知りました。とにかく、出産後出血が多量で、子宮摘出し、生死の境を越えての事で、肝炎も輸血後肝炎と聞いていたので、医師に対しては、命を助けてくれた思いで一杯でした。今も、医師に対しては何とも思っていません。 |
| 165 | 感染当時、フィブリノゲンで肝炎が発症することを、医師は知っていたのではないかと思う。同じ産婦人科病院で、フィブリノゲンによる治療で発症した人が、私以外にもいたからだ。国が、使用中止や別の治療方法などを迅速に、強く指導していたら、肝炎の感染は防げたと思う。医師は、人の命と直接向き合っているのだから、安易に使ってほしくなかった。 |
| 166 | 効くと言われて（製薬会社）使用して、結果NGだった時点で上へも（国、製薬会社）下へも（被害者）、早急に訴追したり、今でも謝罪できていないのは何なのか。それも大部分の医師がそのままということは、人道的にも劣る。 |
| 167 | 許せない。恨んでいる。 |

| No. | 問6-2　フィブリノゲン製剤ないし第Ⅸ因子製剤を使用した医師に対して |
|---|---|
| 168 | 医師からは、出血を止めるために使用したと聞きました。そう言われると、医師を恨むわけにもいかないとも思います。 |
| 169 | 当時、医者は薬害の認識はなかったと思うので、未来に向かって治療法の研究等に、努力していただきたい。 |
| 170 | 仕方のない事だったのかなぁと感じる。 |
| 171 | 1987年後半には、フィブリノゲンの使用中止をしている外科医が大半であったにもかかわらず、不勉強で使用した医師、病院に不信感を持った。 |
| 172 | 青森の集団感染の３ヶ月後に投与されたことに、憤りを禁じ得ない。医療現場での安全確認を怠らないよう、徹底した下さい。 |
| 173 | フィブリノゲンを使用しなければ、出血多量で助からなかったかも分からないと思うと、複雑な気持ちです。 |
| 174 | 医師は、フィブリノゲンを打てば肝炎になることは、知っていたと思う。でも、打たなければ患者が死ぬかも知れないと思って、打ったのだと思います。 |
| 175 | 当時としては、やむを得ない処置だったと思う。悔やんでも、以前の体には戻れない。命を救ってもらって感謝するべきなのかなぁ？ |
| 176 | 分からない。本当に分からないんです。 |
| 177 | 使用薬剤について、よく勉強していてほしかった。 |
| 178 | たとえ緊急だったとしても、副作用の説明はしてほしかったと思います。家族も待機していたのですから、どちらかを選ぶとしたら、家族からの輸血を望んだと思います。産後退院する時に、医師から「もしかしたら肝炎になるかもしれない」と言われましたが、それでは遅すぎました。 |
| 179 | フィブリノゲンを使用しなければ、手術ができない状態ではなかった。安易な医師の判断によって使用された。憤りを感じる。 |
| 180 | 使用した医師には何とも思っていません。私の場合は、Ｃ型を教えてくれた先生に、「治ったからいいだろう」と言われ、がく然とした。医者の中にも、自分の事しか考えていない人もいるんだと感じた。 |
| 181 | 当時はとても許せない気持ちでしたが、今は、医師もある意味被害者だったのかもという思いになってきました。 |
| 182 | 使用後に出血が始まったのだから、予防のためにと、使わなくてもよいものを体に入れられたのに、「生命を助けるためには、仕方がなかった」と言い訳しないでほしい。生命を預かる者として、責任をもって医療に従事してほしい。 |
| 183 | 命を助けていただいたので、感謝しています。 |
| 184 | その当時では、仕方がなかったと思う。 |
| 185 | フィブリノゲンを投与した時、それ以外に私の命を救う方法はなかったのかどうか、聞きたいです。しかし、30年以上前のカルテを保存してくれたおかげで、和解できたのは良かったです。 |
| 186 | いつ進行するのか、いつも不安がつきまとう。インターフェロンの治療を受けるのが怖い。 |
| 187 | その当時は、止血剤としてフィブリノゲンが常用されていたと思うので、仕方ないと思っています。 |
| 188 | 使用する時に、明確に使えてほしかった。良い薬があるからだけだった。 |
| 189 | 昭和44年頃の事ですし、その時は医師も分からなかったと思います。私の命を守るため、仕方がなかったのだと思います。 |
| 190 | 止血のためにフィブリノゲンを使ったのだから、仕方がないと思います。使っていなければ、大量出血で死んでいたのかも知れません。Ｃ型肝炎になって大変ですが、それも運命かなと思います。 |
| 191 | その時は、医師にとって最善の処置をしていただいたのかと思っています。でも、あのときの苦しみ、恐怖感、絶望感は、二度と味わいたくないです。 |
| 192 | 止血のため、仕方がなかったのかな。でも、もしかして違う医師であったなら、違う方法をとってくれたのかも・・・と、ちょっと複雑な気持ちである。 |
| 193 | 出血がひどかったので、当時は普通だったと思っている。 |

| No. | 問６－２　フィブリノゲン製剤ないし第Ⅸ因子製剤を使用した医師に対して |
|---|---|
| 194 | 出産中に、何も分からない時に言われても・・・？このような医師、病院スタッフを信じられません。 |
| 195 | 害があると解った時点で、すみやかに使用を中止してほしかったです。私の場合、時期が解りません。 |
| 196 | 使用して肝炎になる人が多いので、検査をさせて下さいと言われたが、分かっていたら使用しないでほしかった。 |
| 197 | 質問に答えてほしい。 |
| 198 | この薬を使用した時は、私の命が危なかったので、助けてもらい、医師に対しては、有り難がったと思っています。 |
| 199 | 当時の治療法としては、最善方法だったと思いますので、責任は問いかねると思います。 |
| 200 | 医師は、患者に十分納得できる説明をしてほしい。 |
| 201 | 産後の急な大量出血ため、第１に救命、第２に子宮温存のために、ありとあらゆる止血方法を試みられた結果ですので、担当医には感謝しております。 |
| 202 | その当時として、最善を尽くしてくれと思うので、憤りは感じてはいません。 |
| 203 | 当時としては、認められていた製剤であったし、効いたのか効かなかったのかは分からないが、生命を助けてもらい感謝している。 |
| 204 | 当時は無知で仕方がなかった。 |
| 205 | あの時代、この方法しかなかったのだろうと思ったりもします。 |
| 206 | 当時、もう少し分かりやすく本人、家族等に説明してほしかった。本人は急だったので、家族にはきちんと。 |
| 207 | 当時は、エイズも感染の恐れがあったのに、予防的にフィブリノゲンを使用したことに、今でも許せない気持ちが強い。父や夫が医師でなければ、訴訟も考えたほどです。 |
| 208 | 当時としては、止血目的に使用したのだから、仕方がなかったと思いますが、使用したことも告げられず、まして、危険性について何の説明もなかったことについて、とても憤りを感じます。 |
| 209 | お医者様には、私の命を助けてくれたことに、本当に感謝しています（すごい出血だったので）。 |
| 210 | 出血を止めるのに仕方がなかった。 |
| 211 | 22年前に手術を受け、途中出血多量のためフィブリノゲンを投与。医師からの説明もなく、入院生活７ヶ月。災難と思って諦めて下さいの一言でした。今年１月、肝臓がんが見つかり、1/4肝臓を切除しました。この怒りを誰にぶつけて良いのか。 |
| 212 | 仕方のなかった事だと思うし、カルテが保存してあった事、こちらの申し出に対し、病院側が誠実な対応をしてくれた事には感謝している。 |
| 213 | 国の許可で使用したので、仕方がないと思う。 |
| 214 | 当時としては、やむを得ないと思う。 |
| 215 | 個人医院の医者も、常に薬の事を勉強してほしいものです。 |
| 216 | 説明もなく使用されて、何十年も気が付かなくて、自分はわがままで身体が弱いと思って苦しんできました。それも２回も使用されて・・・。先生方は、自分の家族にも使用するのかしら？と思いました。後でどうなるのか分からないものを使用する時の気持ちはいかがなのか、知りたいと思っています。 |
| 217 | 薬害がある事を分かって使用したモラルを問いたい。 |
| 218 | 使用した時は、この薬を使わなければ命がなくなると思い、使ったのだと思います。まさか、このような事になるとは・・・。医師からの連絡でこの事が分かり、これからの自分の生き方を考える機会を、与えてもらったように思います。 |
| 219 | 当時使用した事実を隠さず認め、それを使用した患者に、少しでも早くその事実を伝えるべきではないか。 |
| 220 | 医師は関係ないと思います。 |

| No. | 問6-2　フィブリノゲン製剤ないし第Ⅸ因子製剤を使用した医師に対して |
|---|---|
| 221 | その当時は、この治療がベストと思われて処置されたと信じていますので、医師に対しては、何も申し上げることはありません。 |
| 222 | 説明もないまま使用され、感染した事には納得がいかない。でも当時、国の対応だったことが、一番の問題だと思います。 |
| 223 | 出血多量で生と死の間にあり、やむを得ない事態だと思う。この件に対して、生命が助かったことを感謝しなければならないと自負している。 |
| 224 | 知らずに使用したことで、恨むことはできませんが、残念です。 |
| 225 | 妊娠中毒症になり、入院していました。34週目、少しずつ出血したにもかかわらず、外来があるからと診察してもらえず、点滴をしながら、先生が来るのをずっと待っていました。不安で不安で・・・。数時間後、突然大出血して吐いて吐いてと悪化したら、やっと先生が来て、急遽帝王切開になったが、その時にフィブリノゲンを使用された。悲しいことに、やっとできた子は体内で死んでしまい、今でも重いものがある。もっと早く出してくれていたら、生きていたのに。「ドクドク」と鳴った心音が、今でも耳に残っている。 |
| 226 | 担当医師から、当時の止血剤としてはフィブリノゲンが一番良い薬だと聞かされ、命が助かったんですよと言われた。命を救っていただいたことに感謝しています。 |
| 227 | 産院は、「出血多量で死ぬより、肝炎でも生きていてよかったでしょう」という考え、態度だった。逆らえず、とても悔しい思いだった。説明もなく、何も分からないまま感染していた。 |
| 228 | フィブリノゲンを使われていた事を、原告になるまで知らなかったので、もっときちんと説明してほしかったと思う。 |
| 229 | 私の場合は出血多量で、もしフィブリノゲンを使っていなかったら、38年前に死に至っていたと思っております。 |
| 230 | どうしてあの時フィブリノゲンを使用すること、他人の血が入っていることを、言ってくれなかったのか。使用後１ヶ月近くも高熱を出し入院していたのに、原因不明の熱ということで終わり。本当に、感染を疑うことはなかったのでしょうか。 |
| 231 | ずっと仕方がないことだと思ってきた。医者は懸命に治療したという思いは今もあるが、ただ、現場の医師が薬や治療に対して、もっと学習したり、疑問を持つことはできなかったのだろうか、とも思ったりする。 |
| 232 | 薬の事は医師は知らなかったし、私に薬害患者ということを知らせてくれたので、感謝している。 |
| 233 | 治療上、仕方がなかったとは思うが、薬に対する知識を、もっと持つべきだと思う。 |
| 234 | 当時の状況を考えると、仕方がないのかなと思うが、フィブリノゲンを使うことに対してのリスクがどの程度あったのか、医師が知っていたかどうか知りたい。 |
| 235 | 命の恩人です。 |
| 236 | 投与した時点で、肝炎の危険性を知らせてほしかった。産後の１ヶ月検診で、すでに尿が茶色だったのに、助産婦が検査したからか、肝炎を発見してくれなかったので、治療が遅れた。 |
| 237 | 使わざるを得なかったのか、複雑な気持ちです。 |
| 238 | その時は、フィブリノゲンを使用することがベストだったと思います。 |
| 239 | 使用を許可してしまった国の責任が重く、医師を責めることはできないように思います。 |
| 240 | 立場上、追跡調査を確実に実施してほしい。 |
| 241 | 知識不足と事なかれ主義の医師にかからざるを得ない状況。安易に、簡単に使用することについて、医師免許を安定した高給取りの免許とせず、日々適性が判断できる免許（更新制）にしてほしい。 |
| 242 | 使用当時は結果か分からなかったのでやむを得ないが、薬害と知った時点で、病院全体で通告の要があった。 |
| 243 | あの時は、私の命を救うためにして下さった事で、当然の措置であったと思います。 |
| 244 | 本当に必要であったか、後の事を考えて使用してほしかった。 |
| 245 | その当時は、仕方のない事だったのかもしれないが、使った事に対しては、悪い事をしたと思ってほしい。 |

| No. | 問6-2　フィブリノゲン製剤ないし第Ⅸ因子製剤を使用した医師に対して |
|---|---|
| 246 | 私は当時、フィブリノゲンがどういう薬剤かというのを、まったく知りませんでした。医師の説明もまったくありませんでした。 |
| 247 | 出産時の大量出血に際し、命を救おうと必死に努力していただいた担当医には、今でも感謝している。ただ、日常医療の中でも、最良の医療を提供しているのかということを、意識していただきたいと思う。 |
| 248 | 一生懸命治療していただいたので、感謝です。 |
| 249 | 当時の状況では故意とも思われず、仕方なかったとも考えられるが・・・。 |
| 250 | 当時は、その方法が一番良いと思い使用したのであれば、仕方がないのかもと思う。カルテを公開してくれたことに感謝している。 |
| 251 | 子供は死んでしまい、悲しい思いをしている時、私が助かっただけでも「感謝してほしい」と言われ、すごくショックでした。 |
| 252 | 止血をするために、懸命だったと思います。自分の状態が悪くて聞けませんでしたが、母親には肝炎が出るかもしれないと説明があったとのことです。C型肝炎とは知らなかったので、すぐに治ると思っていました。 |
| 253 | 説明が全くなく使用された。出産時（予定日）がお盆に重なるため、無理に陣痛促進剤を使用された怒りもある。 |
| 254 | 無責任すぎる。 |
| 255 | 仕方がなかったと思います。 |
| 256 | 何かをしなければ命がなかったし、とても複雑です。 |
| 257 | どの方でも仕方がなかったことでしょう。でも、自分の家族には使ったでしょうか？ |
| 258 | 肝炎になったのは悲しい事だけれど、死ぬか生きるかの手術をしていただいて、今まで幸せな時間を過ごせてこれたのは、先生のおかげだと思っています。 |
| 259 | 医師の言葉から投薬に至るまで、患者は治ることを信じて治療を受けます。快方に向かうと信じて、命懸けで治療に臨むのです。だから裏切らないで下さい。こんな悲劇は、どうか繰り返さないで下さい。 |
| 260 | 命に関わる大手術でのことなので、仕方がないと思います。 |
| 261 | 当時の医師としては、仕方がなかったと思います。 |
| 262 | 出産時に使用されていたのですが、長女を産み幸せに思えますが、現在まで病気との闘いはまだまだ終わっていないことを、実感しています。死に至るまで、娘２人に世話をかけるのですから、本当に胸が痛む思いです。 |
| 263 | 先生には今も診察してもらっている。90%以上無理だった手術が成功して、現在に至っているので、感謝しています。 |
| 264 | 一時体がだるくて寝てばかりでした。でも今は少し体調がましで、がんばっております（母の介護）。 |
| 265 | 何も言えません。 |
| 266 | 第１子出産時と同じ位の出血だったのに、第２子の時にどうして使ったのかな？と思うこともあります。 |
| 267 | 私が出産した病院は、何人もの肝炎患者を出しているのに、漫然と同じ薬を使う。薬の使用に、もっと責任をもつべきだったと思うし、発症当時、責任を患者側に押し付け、責任逃れをした対応に、今でも心底怒りを覚える。 |
| 268 | 責任を重く受け止め、丁寧に説明をしていただきたい。 |
| 269 | その時の治療方針に文句を言う事もないが、医師に対しても怒る気持ちもない。 |
| 270 | 出産時の出血の止血剤として使用したであろう・・・と思っていたので、その当時は仕方がなかったと思っています。 |
| 271 | C型肝炎に感染するとは思わなかったと思うので、何も思っていません。 |
| 272 | 生命を救うためには、それしかなかったのかなぁと、いつも思っています。 |
| 273 | 生きてこの病気の苦しみや悲しみを味わうのだったら、知らずに去った方が良かった。 |
| 274 | その時は、その治療がいいと思ってして下さったと思いますので、仕方がなかったと思います。 |

| No. | 問6－2　フィブリノゲン製剤ないし第Ⅸ因子製剤を使用した医師に対して |
|---|---|
| 275 | 当時の医師は、この薬が危ないものだと分かっていたのか？不明なので、医師に対しては何も言えません。私の場合大量出血で、すごく良いチームワークで治療していただいて、とても感謝しています。 |
| 276 | その時には、その処置が一番良い方法だったのだと思う。その処置のおかげで、私は助かったのだと思うので、医師に対しては責める気持ちはない。 |
| 277 | 使用前に説明してほしかった。使用前にできなかったにしても、使用後速やかに患者に対し、説明責任があったのではありませんか。16～17年も経過して、それを書面で知らされた。人の命を預かる立場の病気、医師の質を問いたい。 |
| 278 | 治そうと思って使用したので、仕方がなかったと思う。先生は知らなかった事でしょうから。 |
| 279 | 国が認めていたのだから、仕方がないと思う。 |
| 280 | フィブリノゲンは当時、止血目的として使用されたので、仕方がないと思う。 |
| 281 | 命を助けるために投与されたもので、医師には特に責任はないと思いますが、当時は、C型肝炎がどんな病気か分からなかったので、仕方がなかったと思っております。 |
| 282 | 出血多量で、止血目的の治療をしていただくことには、全く不満はありません。ただ、専門的に知識のある方や多くの情報が集まる機関に対しては、納得がいかず残念でなりません。 |
| 283 | 当時、医師の方々も、この製剤に関しては、ただ必要不可欠な物としか認識していなかったので、責めることはできない。 |
| 284 | 全国的、世界的な問題で、医師に対しての意見はあるが、その薬の使用を許した国に対して言いたいです。 |
| 285 | 産婦人科医は、私の命を救うには、フィブリノゲンの止血剤を使用するしかなかったと言いました。産婦人科医も被害者なのかなと思います。 |
| 286 | 医者は皆いい方でした。現在もよくして下さり、尊敬もしています。病院は、素晴らしいスタッフで感謝です。 |
| 287 | S62年当時としては、使用されたのも仕方ないと思う。少なくとも、悪意ではないでしょう。 |
| 288 | その時は何も知らなくて、命を助けていただいたと喜んでいました。何の説明もなく、検査もなく過ぎていきました。今になって悔しい思いです。 |
| 289 | 製薬会社の言葉をうのみにせず、副作用等もよく理解し、本当に必要な治療なのかを判断してから、使用していただきたい。 |
| 290 | オペの医者は最良の手術で、早期社会復帰を目標にしてくれましたが、製剤問題の認識はなかった結果である。ショックが大きい。 |
| 291 | 残念な結果となりましたが、当時、手術や治療等、一生懸命やっていただき感謝しています。 |
| 292 | 当時は、フィブリノゲン製剤を使用するとは聞いていなかったし、まだ分からない時代だったと思うので、仕方がないとの気持ちもある。心臓手術の止血剤には、効果があったということなので、理解はしている。 |
| 293 | 当時としては、医師に責任を持たせることはできなかったと思うので、医師に対する気持ちは何もない。カルテ等情報提供に協力的で、好感が持てた。 |
| 294 | 責任ある説明がほしい。 |
| 295 | 入院時に熱がでて、薬の副作用ででているのに、製剤使用が分かった。何で教えなかったのだ。 |
| 296 | 医師もよく分かっていなかったと思うので、やむを得ない。 |
| 297 | 以前はウィルスが分からなかったので、仕方がないと思いますが、それより、輸血のし方を変えてほしいです。まず最初に自分の血液を200cc～400cc取っておけば、このような問題は減ると思います。たとえ使用しなかったとしても、検査済みの血液だから、ウィルスがあるかないかも分かりますし、本人にとっても安心だと思います。 |
| 298 | 安全なものを使用してほしかった。 |
| 299 | 当時、私の命が助かったこと。インターフェロンで、少しは良くなりました。 |
| 300 | 肝炎に感染する可能性があることを、話してほしかった。 |

| No. | 問6-2　フィブリノゲン製剤ないし第Ⅸ因子製剤を使用した医師に対して |
|---|---|
| 301 | 「知ってて使ったの？」どんな気持ちで使っていたのか知りたい。 |
| 302 | その他に出血を止めることができなかったのか？ |
| 303 | 本当に知らなかったのなら仕方がない。通達を乱発しすぎる国（厚労省）のせい。 |
| 304 | 医師に知識があって、この薬を使ったのか問いたいが、もう他界されていて、真意は分からない。 |
| 305 | 薬の副作用について勉強してほしい。使用しなかった医師もいる。 |
| 306 | 出産時に命は助けていただいたが、今後なりうるであろう病気の事を、しっかりと教えてほしかった。 |
| 307 | もし使用していなかったら、出血多量で死んでいたかも知れないし、複雑な気持ちです。 |
| 308 | 使用する前に、説明がなかったのは悔しい。 |
| 309 | 製薬の在庫があったからと、使用してほしくなかったし、説明もなしは絶対に許せない。 |
| 310 | 医師に対しては、何も思っていません。当時の一般的な治療であったと受け止め、精一杯治療していただいたと思っています。 |
| 311 | 生きていることに感謝しています。 |
| 312 | 大動脈瘤の大手術で、命を救ってもらえたことに感謝している。当時の医師がフィブリノゲンの危険性を把握されていたかどうか分からないので、責める気持ちは全くない。 |
| 313 | 医師も肝炎の重大さが分かっておらず、気軽に使用したと思います。正確な情報が伝わっていたら、使用しなかったかもしれません。 |
| 314 | 出産後、縫合不全で出血し、再度縫合し、出血量が少なく、点滴されて気分が悪いから止めてほしいと頼んだが、鎮静剤を打たれ、フィブリノゲンを打たれたのが、昨日のように思い出され、病院に何回か連絡したが、対応が悪く、今でも不信感が残る。 |
| 315 | 止血のために投与したので、仕方がないと思う。 |
| 316 | フィブリノゲンの投与の説明が、当時されなかったように思う。詳しく説明していただきたかった。 |
| 317 | 何故使用したのか？使用しなければいけなかった理由。 |
| 318 | どうしてフィブリノゲン製剤を使ったのか、説明がほしかった。出産後１ヶ月検診の際、血液検査をしてほしかった。 |
| 319 | 緊急の治療は時間との闘いですが、治療の説明、特に治療のリスク等の説明、同意を取ることの徹底。 |
| 320 | 使用した医師は、当時、フィブリノゲン製剤の危険性をどれだけ認識していたのか分からないが、投与する時、リスクの説明をしてほしかった。 |
| 321 | 手術をする前にフィブリノゲンを使用するという説明はなかった。輸血は受けてない。診療記録に出血の有無は記されていない。私の場合、フィブリノゲンを使って止血する必要があったのか、疑問に思う。使われた事が残念でたまらない。 |
| 322 | 仕方がないことだと思います。 |
| 323 | 分かっていて使ったならば、人として、医師としてダメだと思う。 |
| 324 | 当時はやむを得なかったと思っています。 |
| 325 | 優秀で誠実な医師。当時、適切に治療して下さったと認識しています。ただ、フィブリノゲン認定の1987年の認定時報告してほしかった。 |
| 326 | 輸血をした時もフィブリノゲン投与の時にも、本人、家族に何も話がなかった。 |
| 327 | 出産時の大量出血だったので、仕方がないと思いました。 |
| 328 | 仕方がなかったのでは。事前に相談してほしかった。 |

| No. | 問6－2　フィブリノゲン製剤ないし第Ⅸ因子製剤を使用した医師に対して |
|---|---|
| 329 | 当時とすれば、止血剤がなかったならば、私は現在生存していなかったと思っています。当時の先生は、この止血剤を信用して使用したと思っています。 |
| 330 | 外に別の薬がなかったのか？ |
| 331 | 生きるために使った薬で、その命さえもなくなるかと思ったら、悔しかったけれど、医師に対しては何も言うことはありません。 |
| 332 | 生命を守るための手術だったので、仕方がないとは思うが、できれば、説明してから使用してほしかった。 |
| 333 | 知っていて使ったのか分からないが、当時としては、一番良い治療だと思っていたのかも。仕方がないかなと思っています。 |
| 334 | 当時としては、最善だったのだろうと思っていたし、今まで生きて来られたと思っています。 |
| 335 | 使用した時、どの程度の情報を知っていたのか、正直な話を聞きたいと思いました。 |
| 336 | 出産時、胎盤剥離で、残念ながら子供は死産して、母親（私）も相当危険な状態だったと、聞かされておりました。その当時、肝炎について、病気の怖さは自分なりに知っていたつもりでしたが、ひきかえに、命をいただいた事に対して、犠牲あっても命だったのかなと、仕方なく自分なりに納得しておりました。 |
| 337 | 出血が止まらないので、フィブリノゲンを受けたので、先生は恨まないが、23年経っても悔しいです。 |
| 338 | はっきり言ってがっかりしました。信用がなくなりました。患者が賢くなって、豊かになって成長したい。 |
| 339 | 悪意が全くない先生なので、医師には恨みはありません。 |
| 340 | 何故、感染の危険性を知らなかったのか。止血に効果がないことを知らなかったのか。知る努力をしてほしい。 |
| 341 | 医師は誠実に対応してくれていますが、もう少し早く告知してくれたらと思うことがあります。 |
| 342 | あの時大量出血して、フィブリノゲン製剤でしか助からないと言う事でしたから、使用しても仕方がなかったと思います。 |
| 343 | 止血剤を使用したことは決して話さず、輸血したからとの言葉ばかりで隠してしまう。ずるい。 |
| 344 | 命を救うための投与だったかもしれません。しかし、肝炎ウィルスに感染することが分かっていて投与されたのは、とても残念なことだと思います。医者が患者を作ってはいけない。とても悲しい事実です。 |
| 345 | 母が姉を出産した時に投与され感染したのですが、当時、投与後の検査や説明がなかったために、自分が母子感染させられた事に対しては、非常に遺憾です。医師としてなすべき事は、きちんとやってほしかったです。 |
| 346 | 当時、現場では、止血剤として有効とされていた製剤であるし、私を助けようとして投与したのだから、医師に一切の責任はないと思う。一生懸命の救命行為に感謝している。 |
| 347 | 投与した事実を告げてほしかった。又、肝炎に感染する可能性も教えてほしかった。 |
| 348 | リスクを知っていたのか？ |
| 349 | 感染する危険性を知らなかった上で、投与したと信じたいと思っています。第Ⅸ因子製剤による被害者は、フィブリノゲンと比べると少ないので、多くの被害者が発見されるよう、努力してほしいと思います。 |
| 350 | 当時は、医者も情報に対して知識がなかったのだから、医師に対しては別に何とも思わない。 |
| 351 | 医師の方から、後から書類が郵送されてびっくりしたが、いろいろと協力してもらった。出産時なので、仕方がなかったと思う。 |
| 352 | 本当に必要な治療方法だったのか？当時、私達も輸血の危険性の有無を知っていたので、説明があれば拒否したと思う。医師の第三者的な態度が腹立たしかった。 |
| 353 | 当時、製剤を使用した事や詳しい説明は受けた記憶がなく、命を救うためには、仕方がなかったと思うしかありませんでした。 |
| 354 | その時はきっと、命を救おうとして使われていると思いますので、医師に対してはありがとうございますの心をなくさないように、自分に言い聞かせています。何度考えても、その時私は死にかけていたようで、確かな事は、生命を救っていただいたということだと思っています。 |

| No. | 問6-2　フィブリノゲン製剤ないし第Ⅸ因子製剤を使用した医師に対して |
|---|---|
| 355 | 当時、本当に肝炎感染の実態を把握していなかったか。 |
| 356 | 担当医は、出血が止まると思って投与したのが分かっている。しかし、止血効果はなかった。担当医が一番ビックリして、早急に他の止血に切り替えて（子宮収縮剤）、命は助けていただいた。裁判でも証言してもらった。 |
| 357 | 産婦人科の医師は、国が認可した薬を使用しただけで、当然責任はないが、私が出産する前には、青森の産婦人科で集団感染していたことなどの情報は入っていたと思うので、慎重な取扱いをしてほしかった。しかし、訴訟においては協力的だったので、感謝している。 |
| 358 | 知っていれば別だが、逆に、被害者という人もいると思える。 |
| 359 | 出血時にこの製剤を使用して、本当に効果があると思っていたのか、それとも、金もうけのために使用していたのか。人の命を何とも思わない、本当に無責任な行為だったと、今でも医師を怨む気持ちでいっぱいだ。 |
| 360 | もし記憶があるのならば、色々な意味で協力してほしい。 |
| 361 | 当時、出血多量で出産した病院（使用した病院）から、私と同じように転院させられた方がいた記憶がある。止血効果がないと思わなかったのか？ |
| 362 | 説明や同意を得ずに使用したこと、感染後も使用した事実について、一切説明がなかったこと、又、止血後に投与したこと。418リストに該当しているので、医師には強い怒りをもっいる。1988年回収された時点で、投与の事実を告知してほしかった。謝罪してほしい。 |
| 363 | 隠さず何事も説明してほしかった。先生としての自覚がない。 |
| 364 | 特に恨んでいません。 |
| 365 | 医師も医薬品を学んでほしい。薬害という認識を学んでほしい。 |
| 366 | 詳しい説明がなかった。書留で思いをぶつけたのに、返事をくれなかった。 |
| 367 | 早くから投与の事実を告げられ、検査も勧めてくれたお陰で、治療もうけることができ、裁判にも参加できたことを感謝しているが、フィブリノゲン投与については、当時としては、仕方がなかったのかもしれないが、避けてほしかった。 |
| 368 | 30年前は、使用した医者も止血剤として、フィブリノゲンしかなかったので、使用したのではないかと思います。 |
| 369 | 命をもらったと思えば、何とも言えないが、証明を受取に行った時、副院長より、「あなたもやっかいな事になりましたね。一生もんですね」との言葉。何を考えているのかと思った。 |
| 370 | 何の説明もないまま使用され、その後全く対応がなかったので、憤りを感じています。 |
| 371 | その時は、フィブリノゲン製剤で止血できると思われていたので、仕方がないと思う。 |
| 372 | 昔は止血剤として医者の判断で使用したのだが、その時点で、病院側は分からなかったのだろう。患者はとても悔しい。 |
| 373 | その先生が一番悪いとは言いませんが、ミドリ十字の●●には、ひとこと言いたかった。自分もフィブリノゲンを投与してみろと！ |
| 374 | 出産後、肝炎であると内科で告知され、その直後に、産科の主治医に肝炎であると報告したにもかかわらず、後で分かった事ですが、私の後からも同じ産婦人科で感染者がでた事を知り、なぜ、主治医はその時慎重に対処できなかったのかと、悔しくも残念に思う。 |
| 375 | 使用にはもっと慎重になってほしかった。 |
| 376 | 医師に対しては、私の命の恩人でもありますので、使用した事に関しては、何も感じません。しかし、副作用があるのなら、説明はしてほしかったです。 |
| 377 | 使用した時の説明が、されていないのは許せない（ウィルス感染について）。 |
| 378 | 使用する前にリスクがあること、使用するということを、親に知らせてほしかった。 |
| 379 | 恨んでいない。 |

| No. | 問6-2　フィブリノゲン製剤ないし第Ⅸ因子製剤を使用した医師に対して |
|---|---|
| 380 | 医師も私に対して、必ず助けるとの思いがあったと思う。でも、F3まで肝炎が進んだ。誰を憎むのか？運命としか言えない。先生、カルテの保存ありがとうございました。 |
| 381 | 血液製剤を使用した事を、早く伝えてほしかったです。 |
| 382 | 当時、厚労省は、使用しない時期になっていたのに、どうして使用したのか、聞いてみたい。別の止血法はなかったのか？ |
| 383 | 当時はその治療が最良だと、医師がしたことなので、悪くは思っていません。ただ、その報告をされていなかったので、それは？だと思います。 |
| 384 | 汚染された血液製剤と知らずに使われたと信じたい気持ちです。 |
| 385 | 本人ないし家族に一言説明してほしかったと思う。 |
| 386 | 命を救うために使用したと思います。あの時は、仕方がなかったと思います。 |
| 387 | 仕方がない。 |
| 388 | 危険なフィブリノゲンをどうして使用したのか？使用したならば、最後まで責任を持て。平成元年12月に、なぜまだ病院に薬が残っていたのか？どうしても知りたい。 |
| 389 | 使用したことでC型肝炎に感染するのが分かっていれば、使用しなかっただろうから、病院側もある意味被害者ではないだろうかとも思う。 |
| 390 | 止血剤として投与され、止血しないと助からなかったので、先生に対しては何もないです。 |
| 391 | 感染の危険性を、真剣に考えてほしかった。 |
| 392 | 近所にすっと住んでいたのに、若い時は引っ越しもするが、もうちょっと本籍とかで、早く私を捜してほしかった。 |
| 393 | 命を救われたことに間違いはありません。あの時手術をしなければ、現在の私はありません。 |
| 394 | 使用された時期において、止血目的の使用（大量の輸血と最初の手術の次の日に再度開胸された）だったので、仕方がないと思う。病院において、フィブリノゲンが常用されていた？ |
| 395 | 製薬会社にしっかり確認をとり、本当にすべて大丈夫と確認を。又、国はそのことを把握して許可しているのかを確認してから、使用してほしい。 |
| 396 | 全国的に協力をお願いしたい。 |
| 397 | 先生は、薬や注射を理解して使うべき。患者は誰を頼ればいいのでしょう。 |
| 398 | フィブリノゲン製剤を使われて３ヶ月後には、C型肝炎に感染が判明していたので、早く説明してほしかった。 |
| 399 | 出産時、出血が止まらなくて、製剤を投与しなければいけない状態で投与されたのは、やむを得ないのですが、その後すぐに内科専門医に紹介してほしかったです。 |
| 400 | その当時、フィブリノゲン製剤を使った医師は、本当に危険だと知らなかったのか？それが知りたかったです。 |
| 401 | リスクの説明をして、使用してほしかった。当時、肝炎の情報は医療機関全体に十分行き渡っていなかったが、エイズの可能性などの肝炎リスクは、情報としてあったはずなので。 |
| 402 | 自分の医師に対しては、あまり恨みはありません。結果、こうなってしまったということです。 |
| 403 | 医師は第Ⅸ因子製剤を使用したことを、知らせてほしかった。 |
| 404 | 出産の何日か前に、フィブリノゲン製剤をしなくてはいけなかったんだろうかと、今でも思っています。出産時に出血が多かったら、フィブリノゲンを投与すれば良かったのではないかと思います。 |
| 405 | 許せない。 |
| 406 | やむなし。 |
| 407 | 前もって説明してほしかった。 |

| No. | 問6-2　フィブリノゲン製剤ないし第Ⅸ因子製剤を使用した医師に対して |
|---|---|
| 408 | 使用時は効果があると思って使用したのでしょうし、カルテのことで連絡した時、すぐに快くカルテを送って下さったので、悪い感情はありません。 |
| 409 | ３年前に、医師からフィブリノゲンを使用したと説明があり、もっと早く説明してほしかった。 |
| 410 | Ｓ62年当時は仕方のないことで、医師に対しては何とも思わない。かえって、原告としての訴訟に協力してもらい、有り難いと思っている。 |
| 411 | 37年前長女を出産する際に、出血多量で危険な状態だったそうで、フィブリノゲン製剤を投与されたことで、Ｃ型肝炎になりました。その時代では、フィブリノゲンはきちんと解明されていなかったので、医師も知らなくて使用したのではと思っています。そのため、このような事が二度と起きないよう、宜しくお願いします。 |
| 412 | 双胎弛緩出血、膣壁裂傷で出血が多く、生死をさまよいました。医師のおかげで子供の成長を見ることができました。助けていただき、とても感謝しています。 |
| 413 | 薬剤を使う時は、副作用に対して慎重であってほしかった。 |
| 414 | 悪い感情は持っていません。現在もお元気で仕事をしておられ、カルテはなくなっていましたが、その時の事を思い出して下さり、協力的で感謝しています。 |
| 415 | 帝王切開手術をし、DICを起こし、当時止血のためには仕方がないと思っている。その頃、フィブリノゲンが禁止されていない事が問題。 |
| 416 | 今後、絶対に薬害が起きないようにして下さい。 |
| 417 | 何とも言えない。 |
| 418 | その当時は、医師も必要な薬として使用していたはずなので、仕方がない。しかし、フィブリノゲンを使用した患者をきちんと調べて、知らせるべき。まだまだカルテがなく困っている人は多い。 |
| 419 | その当時は、分からなかったのではないか。 |
| 420 | その時は、安全だと思われていたのだろうから、仕方のない事だったのかな。 |
| 421 | 私の命を救うためだったと思う。 |
| 422 | 使用時は命に関わる状態だったので、仕方がなかったと思います。助けてもらったことには、感謝しております。 |
| 423 | なぜ、私が薬害を受ける運命なのか？製剤を使わなければ、本当に命にかかわったのか？などの疑問を持ち続けていましたが（感染発覚当時）、医師は定期的な血液検査等のフォローができていたので、すぐに感染を見つけることができ、完治（早期治療）につながったので、今となっては、感謝しているくらいです。投与の証明もすぐに書いてくれました。 |
| 424 | 医師に対しては、その当時では仕方がなかったのだと思います。 |
| 425 | その当時の医師は、自信を持ってフィブリノゲンを投与した。今はフィブリノゲンを投与した事を、自信を持って肝炎患者１人１人に事実を言ってほしい。 |
| 426 | 説明は何もされていなかったので、手術の前日に話してほしかった。使用した場合は、何か症状が出るのか。その後治療をしてほしい。 |
| 427 | 当時としては、仕方がなかったと思います。 |
| 428 | 出産時の多量出血による生死に関わる状態の中での緊急処置でしたから、命が救われたことへの感謝だけでした（昭和42年当時）。 |
| 429 | 製薬会社から症状に効くと聞かされて、使ったのだと信じています。実際使われた時期は、とても良くしていただきましたので。 |
| 430 | 35年前は、医学的に仕方がなかったが、その後の責任追及をしてほしい。 |
| 431 | 使用された時がかなり前なので、やむを得なかったと思います（Ｓ42年使用）。朧気な意識の中で、「この薬があって良かったね」と言う医師と看護師さんの声を聞きました。当時は、止血剤としては役に立ったのだと思います。 |
| 432 | 私の場合、出産した病院の先生の良心的な配慮で、20年前のカルテが残されていたため、和解ができたことが、ありがたく思っています。 |

| No. | 問６－２　フィブリノゲン製剤ないし第Ⅸ因子製剤を使用した医師に対して |
|---|---|
| 433 | その時は仕方がなかったと思う。今生きていることの方がうれしい。 |
| 434 | 先生には、すでに３人の子を取りあげてもらっていた。死産により大量出血で、出血が止まらず、輸血と止血剤を使われた。母体を助けるために使用された。その時は、命を助けてもらったと思っていた。その後、肝炎になった事はとてもショックだったが、特に、先生には何も言うことはない。 |
| 435 | 当時の処置としては適切だったと思う。やむを得ない。担当医師も薬害だとは知り得なかったしずだから・・・。 |
| 436 | 問題が生じた時の対応など、早急にしてほしい。責任感。 |
| 437 | 手術のため使ったのは理解できますが、他の止血剤ではだめだったのだろうか。命を救ってもらったのは、感謝しています。 |
| 438 | 当時としては、仕方がないと思う。 |
| 439 | 薬剤を使用する時に、副作用、危険度を認識してほしい。 |
| 440 | 出産のとき、出血を止めるのに、最善を尽くしてもらえたのだと思うので、仕方がないことだと思います。 |
| 441 | 「人の命の重さ」「人の気持ち」等々考え、倫理観を持ってしほい。自分の家族、大切な人（親兄弟、子供等）が、このような被害を受け、人生が大きく悲しい方向へ転がっていくとしたら、自分はどう思うかを（同じ医療従事者として）、倫理観と共に深く反省し、これ以上被害者が出ないようにしてほしい。 |
| 442 | 医師に対しては、病気を治していただいたことについて、感謝しています。 |
| 443 | 使用する以外、命が助からない状況だったと思うので、仕方がなかったと思います。 |
| 444 | 今、病気になったことをとやかく言っても、仕方がない。その時の医者の判断も、苦しかったと思う（はがゆい時もあるけれど・・・）。ただ、命を救ってくれ、現在この世にいる幸せはある。 |
| 445 | 私はあと何年生きることができるのでしょうか？あと何年薬を飲むの？病院はいつまで行ったらいいの？不安な毎日です。この気持ち、分かりますか？ |
| 446 | 当時は、止血剤としてそれを使用しなければ、命が助けられなかったのだから、仕方がないと思う。 |
| 447 | 生まれてすぐに出血しており、止血剤としてクリスマシンを投与されたので、未熟児だったこともあり、今、自分が生きているのは、その止血剤のおかげかなと思うので、肝炎になったことは、命と引き替えだったということで受け入れています。 |
| 448 | 他の薬を使用できなかったのか。とても残念です。 |
| 449 | 安全性の確認をしてほしかった。患者は医師に命を預けているのです。 |
| 450 | 医師に責任はなかったとしても、初めて説明を受ける際に、今後何かあっても関わりはないと言われたことを撤回してほしい。無理に書類に印、記入させられた。 |
| 451 | 止血のため、命を守るために使用したので、医師に対しては特にない。医師も被害者であると思う。 |
| 452 | 緊急を要した深夜の出来事とはいえ、家族に連絡してから投与してほしかった。医療的には、当時の産科として精一杯の事をしてくれた。 |
| 453 | 処方した医師には、全く問題はない。 |
| 454 | 別になし。私なりに調べた結果、当時はフィブリノゲン製剤を使用しなかった医師に対して、厚労省が賠償金を課せていた事実があるから。 |
| 455 | 医師に対しては、全く怒りなどは感じていません。生まれたばかりの私を生かして下さって、ありがとうございますという気持ちのみです。 |
| 456 | 医師は使用する薬剤の効果を十分に確認して、患者に使用してもらいたい。 |
| 457 | 安全性を確認してから使用してほしい。 |
| 458 | 薬に副作用があると承知の上ならば、その後のケアについても責任を持ち、使用してほしい。 |
| 459 | 仕方がないと思います。 |

| No. | 問6-2　フィブリノゲン製剤ないし第Ⅸ因子製剤を使用した医師に対して |
|---|---|
| 460 | 医師には出産時や出産後、よくしていただいた。出産後の１ヶ月検診の結果が悪いのを、すぐに電話で知らせて下さり、紹介状をもらい、入院となった。 |
| 461 | ちょっとした異変にも声をあげてほしい。 |
| 462 | 許さない！！という気持ちはあるが、汚染された血液製剤と知らなかったなら、しようがない気持ちもある。 |
| 463 | 説明がもっとあってもよかっのでは。母子手帳にも記載してほしかった。 |
| 464 | 命に関わる病気を助けていただいて、感謝しています。その当時は、使用することによる悪影響は、分かっていなかったと思います。 |
| 465 | きちんとした説明の上で、理解を得てから使用してほしい。 |
| 466 | なぜ？命を守るため？ |
| 467 | 先生は知らずに使用したので、仕方がないと思いますが、私自身も、カルテに記入されているのを見て実感しました。 |
| 468 | その時は仕方がないことであると思う。 |
| 469 | 出血が多かったため、やむをえなかったと思います。使用後、強肝剤の点滴を続けてもらい、ありがたかったです。 |
| 470 | 当時はわからなかったことかもしれませんが、慎重に治療してほしかった。使用したことを、なぜ今まで隠していたのか。早く告白してほしかった。 |
| 471 | 仕方のないことだったかもしれないが、それ以前に大量出血をおこした原因の方が知りたかった。しかし、助かった命に対して感謝の気持ちも強いので、目をつぶってきた。ふりかえりたくない思いも強い。 |

# 薬害C型肝炎の被害実態に関する調査

## （ご遺族様）

《目　次》


| | ページ |
|---|---|
| 自由記述「ご意見、ご感想 」 | 3 |
| 各設問の「その他」欄への自由記述 | |
| 問１－５　職業－その他 | 5 |
| 問１－６　同居者－その他 | 5 |
| 問２－７　感染原因の薬剤投与を受けた理由－その他 | 6 |
| 問２－７－１　感染原因の薬剤投与を受けた外科的手術 | 6 |
| 問２－９　肝炎と診断された頃、身の回りの世話をしていた人－その他 | 8 |
| 問２－11　肝炎診断確定時の症状－その他 | 8 |
| 問２－12　受けた治療－肝癌に対する治療 | 9 |
| 問２－12　受けた治療－その他 | 9 |
| 問３－１　故人の闘病中に故人から相談をうけたこと－その他 | 10 |
| 問３－１－１　相談を受けた内容 | 10 |
| 問３－２　故人が肝炎に感染していることを知ったときのあなたの気持ち－その他 | 13 |
| 問３－３　故人が闘病している時のあなたの気持ち－その他 | 13 |
| 問３－４　故人の闘病中から死亡に至るまでのあなたの行動－その他 | 14 |
| 問３－５　故人の病気に関して感じたこと－その他 | 14 |
| 問４－１－１　故人が亡くなられた後の変化 | 15 |
| 問６－１　故人に関することで経験したこと－その他 | 17 |
| 問６－１－１　故人に関することで経験した内容 | 17 |
| 問６－２　肝炎判明後に生じた問題－その他 | 18 |
| 問６－４－２　故人が肝炎に感染したことに対して、あなたがした行動－その他 | 18 |
| 問７－３　医師に対して | 19 |
| 問７－３　国に対して | 21 |
| 問７－３　製薬会社に対して | 23 |


《注》
本資料は、原則として、記載内容をそのまま転記した。但し、誤字・脱字等については訂正した。
固有名詞は、プライバシー保護のため、実名公表で住所・氏名記載部分も含め伏字とさせていただいた。

## ● 自由記述

ご意見、ご感想

| No. | ご意見、ご感想 |
|---|---|
| 1 | 皆さん完治されることを願いますが、私は、Ｃ型肝炎で姉と弟の２人を亡くしました。今生きていれば、良い治療が受けられたのではと思うと、とても残念です。アンケートを書きながら、姉と弟の闘病生活や最後の時が思い出され、とても辛い思いでした。姉はよく「私は金食い虫なの」と言っていましたが、経済的にも大変でした。これからも治療が続く方達が、少しでも軽減があることを願います。尚、私自身体調がすぐれないので、アンケートに関しても苦痛を伴いました。活動もできずに、申し訳なく思っています。書類が郵送されることに、何だろうと不安になってしまいます。早く良くなりたいと思っているのですが・・・。 |
| 2 | 私は患者ではなく、闘病する患者を支える側の立場だったので、同じ立場の人に対しての思いが強いですが、患者が重病化し、苦しみを訴え、自分の無力さに空しくなったりする時もあると思います。介護に疲れて、自身の生活もままならなくなる時もあると思いますが、同じ立場の人や同じ介護を経験した人も沢山います。どのような形であれ、必ずトンネルの出口は見えてきます。その日まで、自分を見失うことなく頑張って下さい。 |
| 3 | 手術記録書は、カルテと違って一定期間で廃棄されないことが判った。40年残っている場合がある。 |
| 4 | この世に姿がなくなったら、どうしてあげることもできません。１日でも早く快復するよう、いろいろ不自由があるかもしれませんが、自身も努力され、生きる事に執着して下さい。家族が一番患者を大切に思っているのです。医学は日進月歩です。絶対に諦めないことが大切です。 |
| 5 | 夫が生きている間に、もっと早く事実が明らかになっていたらと・・・複雑な思いでいっぱいです。今も薬害で苦しんでおられる方の救済を、一日も早くお願いします。 |
| 6 | 薬害肝炎の患者さんには、明るい光がさしつつあると思います。頑張って長生きしていれば、きっと良い未来があると思います。 |
| 7 | 看病する立場から、患者の状況、看病経験の実体験を１冊の本にまとめて発表すれば（本を作って出版）、多くの人々に理解が得られて、役立つと考えており、私自身が原稿を書きたいと思っている。現在検討中である。闘病中の人々の声も書き入れたいが、応募方法は弁護士の方にお願いしたい。東京弁護団として発行することを望む。 |
| 8 | 父は、22年前の心臓バイパス手術時の止血剤（凝固因子）の投与で、Ｃ型肝炎に感染しました。手術直後にすぐに分かりましたが、その後の闘病生活で、治療に保障がなかったので、十分な治療が受けられず、徐々に悪化し、７年前無念の思いで他界してしまいました。その後、弁護団、原告団、有志の方々の力の結集で、保障を勝ち取りましたが、まだ満足するものではありません。段階的に、今後も戦いは続きます。又、カルテ、資料が見つからず、保障を受けられない方もいます。諦めず、弁護団に相談して下さい。道は見つかると思います。共に頑張りましょう。 |
| 9 | 今後もこのような調査を続けていただき、その患者さんや家族の状況等を把握して、適切なご支援をお願いします。 |
| 10 | 患者はびくびくして毎日を送っているから、周りの人が気を使って、なるべく安心するようにしてあげて下さい。私の妻はＣ型、肝硬変、肝癌と長い間闘っていまた<br>が、51才で死亡しました。その間は大変な闘病生活でした。二度とこういう事がないようにしてほしいです。 |

## ● 各設問の「その他」欄への自由記述

**問1－5 職業－その他**

| No. | 問１－５　職業－その他 |
|---|---|
| 1 | 会社経営 |

**問1－6 同居者－その他**

| No. | 問１－６　同居者－その他 |
|---|---|
| 1 | 孫 |
| 2 | 孫 |

## 問2－7　感染原因の薬剤投与を受けた理由－その他

1 骨髄性白血病治療時の輸血

## 問2－7－1　感染原因の薬剤投与を受けた外科的手術

| No. | 問２－７－１　感染原因の薬剤投与を受けた外科的手術 |
|---|---|
| 1 | 上行大動脈人工血管置換術 |
| 2 | 狭心症のバイパス手術 |
| 3 | 心臓バイパス手術 |
| 4 | 十二指腸潰瘍 |
| 5 | 心臓弁膜症 |
| 6 | 心臓バイパス手術 |
| 7 | 大動脈弁閉鎖不全狭窄症、うっ血性心不全、大動脈弁置換手術 |
| 8 | 心臓 |
| 9 | 右卵管角切除術 |
| 10 | 冠動脈バイパス手術 |
| 11 | 連合弁膜症（弁置換） |
| 12 | 心臓バイパス |
| 13 | 解離性動脈瘤 |
| 14 | 冠動脈バイパス術 |
| 15 | 腸の憩室炎 |
| 16 | 食堂腫瘍 |
| 17 | バイパス手術 |
| 18 | 腹部大動脈瘤破裂 |
| 19 | 心臓 |
| 20 | 胆のう摘出術 |
| 21 | 大動脈弁下狭窄症 |
| 22 | 心臓バイパス |
| 23 | 心臓バイパス |
| 24 | 心臓 |
| 25 | 僧帽弁人工弁置換術 |
| 26 | 心臓 |
| 27 | 心臓バイパス |
| 28 | 心臓バイパス |

| No. | 問２－７－１　感染原因の薬剤投与を受けた外科的手術 |
|---|---|
| 29 | 心筋梗塞でバイパスを造る |
| 30 | バイパス手術 |
| 31 | 膿胸 |
| 32 | 総胆管結石 |
| 33 | 心臓バイパス手術 |
| 34 | 頸椎血管腫 |
| 35 | 胃潰瘍 |
| 36 | 心臓弁膜症 |
| 37 | 乳癌 |
| 38 | 心臓 |
| 39 | 胃潰瘍 |

### 問2－9 肝炎と診断された頃、身の回りの世話をしていた人－その他

| No. | 問２－９　肝炎と診断された頃、身の回りの世話をしていた人－その他 |
|---|---|
| 1 | 故人の父母 |
| 2 | 故人の嫁 |
| 3 | 孫 |
| 4 | 母 |

### 問2－11 肝炎診断確定時の症状－その他

| No. | 問２－11　肝炎診断確定時の症状－その他 |
|---|---|
| 1 | 黄疸が全身に出た、目も真っ黄色 |
| 2 | 吐き気、全ての臭いが気になる |
| 3 | 出血傾向あり |
| 4 | 食欲不振 |
| 5 | 食欲不振 |
| 6 | 食欲がない |
| 7 | 腹が膨らんでいるので、常に撫でていた |
| 8 | 全身のかゆみ |
| 9 | 身体全体のむずかゆさ（虫がはっている）、腹部の膨満感、コーラの色のような泡状の尿 |
| 10 | 高血圧 |
| 11 | 腹水 |
| 12 | 腹水が溜まっていた |
| 13 | 黄疸 |

**問2－12 受けた治療－肝癌に対する治療**

| No. | 問２－12　受けた治療－肝癌に対する治療 |
|---|---|
| 1 | エタノール塞栓治療、初期はレザー |
| 2 | 手術をする、肝動注両方 |
| 3 | ラジオ波 |
| 4 | 冠動脈塞栓術、放射線 |
| 5 | ラジオ波、カテーテル、放射線 |
| 6 | カテーテルによる治療 |
| 7 | カテーテル治療 |

**問2－12 受けた治療－その他**

| No. | 問２－12　受けた治療－その他 |
|---|---|
| 1 | プロマック |
| 2 | エタノール療法 |

### 問3－1　故人の闘病中に故人から相談をうけたこと－その他

| No. | 問３－１　故人の闘病中に故人から相談をうけたこと－その他 |
|---|---|
| 1 | 重い肝炎だったので、仕事に戻れない事を本人はショックを受けていた。経済面は、姉の私と同居していたので、心配はしていなかったと思う。 |

### 問3－1－1　相談を受けた内容

| No. | 問３－１の回答 | その内容 |
|---|---|---|
| 1 | 1. 病気 | 心臓の術後、肝炎になった理由不明 |
| 2 | 1. 病気 | 悪くなるばかりなので、自殺した方がいいと話していました |
| 3 | 1. 病気 | 会社に復帰できるかどうか、仕事ができるかどうか心配でした |
| 4 | 1. 病気 | 疲れやすい体質となったこと |
| 5 | 1. 病気 | 肝炎に対する病気の不安について |
| 6 | 1. 病気 | 薬を飲んだり、治療を受けているのに体調があまり良くならない。何故なんだろう。 |
| 7 | 1. 病気 | なかなか良くならないので、病院の先生が何か言っていなかったかと私に聞いてきました。本人は何で治らないのかわからないので不安だったと思います。 |
| 8 | 1. 病気 | 効果的な治療法や根治できるのかなどの悩みなど。感染経路が不明などのいらだちを訴えることも多かった。 |
| 9 | 1. 病気 | 元々の病気が治ったのに、肝炎になってしまったことを悔やんでいた。 |
| 10 | 1. 病気 | いつも気持ちが不安になっていた |
| 11 | 1. 病気 | 術後、創部が感染し、通院するもなかなか完治しないことがかなり不安だった。 |
| 12 | 1. 病気 | 進行状態を気にしていた。 |
| 13 | 1. 病気 | 医師からの説明を知らせてくれ、治療方法とか今後たぶん辿るであろう将来を聞かされました。 |
| 14 | 1. 病気 | 肝臓が悪くなった現員が思い当たらず困っていた。入院、通院の辛さ。 |
| 15 | 1. 病気 | 常に前向きでしたが、肝がんが再発する度に気弱さが目立っていた。他人の前では常に明るい人であった。 |
| 16 | 1. 病気 | ・あとどのくらい生きられるか。<br>・私だけが何故Ｃ型肝炎にかかってしまったのか。<br>・苦しくてもう死にたい、耐えられない。 |
| 17 | 1. 病気 | 初期の頃は完治するものだと思い、それほど思い詰めてはいなかった。故人は前向きに治療し、医師の説明にもノートを取り、肝炎に対して勉強していた。 |
| 18 | 1. 病気 | 食事療法 |
| 19 | 1. 病気 | 病気に関しては自分で家庭の医学書を読んできたみたいで、何回が言っていたことがあった。 |
| 20 | 1. 病気 | ・肝癌への移行<br>・家族への感染 |
| 21 | 1. 病気 | 血液での感染があるので、故人のカミソリなど使うなよ！ |
| 22 | 2. 経済的なこと | 長期入院で給料が減額になるかも。 |
| 23 | 2. 経済的なこと | 今の状態がいつまで続くことができるかと。 |

| No. | 問３－１の回答 | その内容 |
|---|---|---|
| 24 | 2. 経済的なこと | 子どもが中学・高校生だったので、進学問題で悩みました。 |
| 25 | 2. 経済的なこと | 今後の生活に対する不安 |
| 26 | 2. 経済的なこと | 入院や手術等が長引いたら大丈夫か心配していました。 |
| 27 | 2. 経済的なこと | 私もパートに行っていましたので、心配ないと安心させていました。 |
| 28 | 2. 経済的なこと | 肝炎が重症化し、仕事も辞めざるを得なかったため、治療費、民間薬の購入費等の援助を頼まれることが多くなった。 |
| 29 | 2. 経済的なこと | 晩年２年は仕事に行けなくなったので、預金を使い果たした。 |
| 30 | 2. 経済的なこと | 入院、手術により多額の医療費が重なり、退院後はＣ型肝炎感染により費用がかかった。子どもの結婚も重なり、出費が多かった。 |
| 31 | 2. 経済的なこと | 子どもの養育について心配していた。 |
| 32 | 2. 経済的なこと | 成長期の子どもにかかる教育費は重く本人にのしかかり、病気を抱えて大変であった。治療にも同じである。 |
| 33 | 2. 経済的なこと | ・何十回も入院するので、毎月の高額医療費を気にしていた。<br>・兄弟、姉妹にも迷惑をかけたこと。 |
| 34 | 2. 経済的なこと | 入院中は給与が出なかったので経済的に苦しく、保健からの給付金でまかなっていた。 |
| 35 | 2. 経済的なこと | インターフェロン治療は予算の都合上無理。しかし、受けたい。 |
| 36 | 2. 経済的なこと | 医療費の負担、交通費。 |
| 37 | 2. 経済的なこと | 今まで二人で働いて家のローンなどを返していたのにごめんねと言っていた。これからは入院費もいると言っていた。 |
| 38 | 2. 経済的なこと | 常勤仕事をやめ、不動産アルバイト（友人）の手伝いで生計を立てていた。 |
| 39 | 3. 家族関係 | 子どもにうつるのではないかと、自分でさわったところ（ドアノブ）など消毒でふいて気をつけていました。 |
| 40 | 3. 家族関係 | 父（故人）は近くに住んでいたが、介護などで負担をかけることを気にしていた。 |
| 41 | 3. 家族関係 | 娘の結婚も見届けないと残念がっていた。 |
| 42 | 3. 家族関係 | ・子どものことが心配。<br>・孫の面倒がみられない。<br>・お父さんばかりに苦労させること。 |
| 43 | 3. 家族関係 | 相談ではなく、お茶を飲みながら姉、弟仲良くやってくれるのが一番うれしいと話していた。 |
| 44 | 3. 家族関係 | 肝炎が子どもにうつらないか心配だった。孫が産まれる時、子どもにも孫にも検査をさせた。独立した子どもに心配かけまいと努力していた。 |
| 45 | 3. 家族関係 | 息子の結婚について |
| 46 | 3. 家族関係 | 経済的に苦しく離婚した。 |
| 47 | 4. 差別や偏見 | 回りが田んぼで、団地なので噂がすぐ広がるので話さないようにしていた。 |
| 48 | 4. 差別や偏見 | 肝炎である原因がアルコールだと言う人がいて、お酒が好きだったので誤解されたことがあった。 |
| 49 | 5. 育児・家事 | カロリー計算しても食事が進まないので、自分の好きなものを食べてしまう。 |
| 50 | 5. 育児・家事 | 一切手伝うことができない。子どもを連れて外出が困難。 |

| No. | 問３－１の回答 | その内容 |
|---|---|---|
| 51 | 5. 育児・家事 | ・栄養士からの指導もあり、食事の関係について。<br>・料理の作り方を妻から何回も教えられる。 |
| 52 | 5. 育児・家事 | ちょうど入退院を繰り返している時が娘の高校受験と重なり、お願いねと言っていた。 |
| 53 | 6. その他 | ４～５年目位から、会社へは戻れないと思うようになり、生きる事に対して気持ちが弱くなっていた。姉の私が、「病気を持っていても、良い人生を送るように」と言っても、本人の体の事はよく分かっていたのか、諦めの人生（日々）を送っていた。 |
| 54 | 6. その他 | 人生の2/3は入院の繰り返しで、職場での精神的苦悩があったようです。 |
| 55 | 6. その他 | 夫の私は、料理の事は全く知らなかったが、自宅療養の折りは、何種類も妻から料理を教わり、お陰で今は、独身の老体にむち打って、妻から教わった料理を作って、生き延びている。感謝、感謝である。 |
| 56 | 6. その他 | 死に関すること |

### 問3－2 故人が肝炎に感染していることを知ったときのあなたの気持ち－その他

| No. | 問３－２　故人が肝炎に感染していることを知ったときのあなたの気持ち－その他 |
|---|---|
| 1 | あくまでも輸血によるものだと思っていたが、数年後、旧ミドリ十字の血液製剤が原因では？と考えるようになった。フェブリノゲンという名称は昨年知った。 |
| 2 | 強いショックを受け、病院勤務の友人からＣ型肝炎の資料をもらい、勉強した。食事にも気を使った。 |
| 3 | 病院の先生は、「Ｃ型肝炎は治らない。慢性肝炎だと思って、気長に治療するように」と言って下さいました。そのうちに、きっと良くなると信じていました。 |
| 4 | 故人もそうでしたが、私もなぜ肝炎に感染したのかが全く分からなかった。肝炎と聞いて、自分自身も故人から感染するのでは？との思いもあった。治療法も治療薬も何も知識がなく、今後病気がどう進行していくのかが、一番心配でした。 |
| 5 | 当時、私は肝炎という言葉も知らず、命に関わる病気、これが薬害であることも知らず、もっと情報があったらと、今現在においても悔いが残っています。 |
| 6 | Ｓ63年４月、胃潰瘍で吐血した時、フィブリノゲンを10本投与され、１ヶ月後に黄疸の症状が出た。本屋で肝炎の本を求めて読んだら、非Ａ型、非Ｂ型と書いてあり、それが始めでした。 |

### 問3－3 故人が闘病している時のあなたの気持ち－その他

| No. | 問３－３　故人が闘病している時のあなたの気持ち－その他 |
|---|---|
| 1 | 肝炎→肝硬変（10年）→肝癌（３年）→死亡。入退院を繰り返していたので、最後に入院した折りも、退院できると思っていました。 |
| 2 | 入退院を繰り返していたので、体調が悪い時は顔色もくすんで悪く、常にどの位生きられるんだろうと思う気持ちで、気のゆるむ時がなかった。 |
| 3 | 主人は入退院を繰り返した。会社に出勤しても、月に２、３度は休んで病院。10年程は病気と闘って、家族に気を使い、会社に気を使って可哀相でした。もし、会社から「退社したら」と肩たたきがあればどうしようと、心細い事も言っていました。亡くなる２週間前お腹に水がたまり、その治療を始めようとする前に、突然吐血し、気を失ったまま亡くなってしまいました。私も子供達も、病気と闘っているばかりのお父さん、病気が良くなったらと、かすかな希望を持ちながら果たせなくて、とても残念としか言えません。病院からいただいた薬を、絶対安全だと信じて飲んでいました。その薬が原因で、亡くなったとは信じられませんでした。 |
| 4 | 倦怠感や食欲不振をよく訴え、病気について自分の置かれている状況など、よく聞かされていたが、私としては、話を聞いてやるくらいしかできず、時には口論になったりすることもあったが、後で空しくなり、介護している自分もどうして良いか分からず、悩んでいた。 |
| 5 | 私にできることはしましたが、本人の苦しさを取り除くことはできなかったと思います。それが、私の気持ちの中に今も残っています。 |
| 6 | 多分知っていたであろう死期を、私たちに感じられないように、いつも普通に淡々と生活していた主人を見ていて、いつもありがとうと感謝の気持ちでしたが、私が自分の事、子供の事など将来の事を考え、イライラして、つい病人であることを忘れて、辛くあたってした事もありました。20余年沢山の事を考えました。どのように書けばいいのか、まとまりません。アンケートを読んでいても、涙が止まりません。 |
| 7 | 常に前向きであった本人が、子供の成長だけを楽しみに頑張っている姿を見て、本当に救えるものなら救ってあげたい。助かる命を見過ごしたと思うと、悔しさと悲しみで、今もなお悔いが残っている。 |
| 8 | 故人が少しでも気持ちが安らぐように、和紙の古典折り紙の手習いをして、現代的な和紙押し絵をデザインから始めて、作品の完成まで、故人独自作品で190点、古典折り紙は90点。展示会場に展示して好評を得る。来場者の要請があり、残った遺作品は20点のみ。一生懸命故人が、病気の事を忘れ作品を作る姿を見るにつけ、どうか妻の病気が少しでも良くなってほしいと、１人手を合わせ涙をこらえていた。他界する２年程前までの生活であり、私も仕事を辞して専門に看病した。 |
| 9 | 肝炎から慢性肝炎、そして、肝硬変、肝癌となり、その症状は少しずつ重病になり、故人もそれを時々心配していました。 |

### 問3－4 故人の闘病中から死亡に至るまでのあなたの行動－その他

| No. | 問３－４　故人の闘病中から死亡に至るまでのあなたの行動－その他 |
|---|---|
| 1 | 入院の時は、朝早くから夕方まで病院で付きっきり。亡くなる３日前からは、泊まりがけでした。 |
| 2 | １人の生活は無理だと医師から言われ、姉の私と同居していた。私が自営だったので、経済的にも100％面倒をみた。入院費もかかったが、通院も特急とタクシー、又は、タクシー（亘理～仙台の病院）だったので、お金が大変でした。私が働いていなかったら、どうだったのかと思う。 |
| 3 | 毎日、地下鉄の定期券を買って病院へ、仕事が終わると行っていました。ちっともしんどいとは思わず、当たり前のよに思っていました。80才の母の面倒もみなければならないし、子供達はまだ学校だったし、私もよく頑張ったなぁと、今になって自分に感心しました。 |
| 4 | 闘病中から亡くなるまで、何度も入退院を繰り返していたが、私自身も仕事、家庭を持ち、職場-病院-帰宅の毎日で、正直、このような毎日がいつまで続くのかと不安だった。故人は私以外に身寄りがなく、結果、私が毎日病院に通う状況でした。 |
| 5 | 入院中は、できるだけ多くの時間を付き添いに充てた。又、家族全員子供等夫婦交替で見守った。 |
| 6 | 度々のラジオ波焼灼術や肝動脈塞栓術の繰り返しで、入退院をしていました。術後、病室へ帰った姿を見て、何度涙を流したか、数えきれません。でも、主人の事を思うと、頑張ろうと自分に言い聞かせていました。最後の手術になった2009年８月、本人は知りませんでしたが、家族は告知されていて、でも普段と変わりなく接していたのがとても辛かった。退院の３日前、ロビーから携帯電話で「母ちゃんありがとう、一杯一杯ありがとうな」と言って切れた。本人はもう死を覚悟していたのかも知れませんでした。私達は、普通以上に仲の良い夫婦だったと思いますし、子供達もそう言ってくれます。でも、もう主人はいません。こんなに悲しいことは、誰にも味わってもらいたくありません。私の正直な気持ちです。 |
| 7 | 日々苦しそうな姿を見ていたので、呼ばれた時、すぐに行けるように、常に主人のそばにいることを心掛けていました。 |
| 8 | 同居であったので、自分も一緒に入院、通院で、行動は一緒でした。 |

### 問3－5 故人の病気に関して感じたこと－その他

| No. | 問３－５　故人の病気に関して感じたこと－その他 |
|---|---|
| 1 | 私は、仕事よりも命を大切にという考え方だったので、介護を優先したつもりなので、弟の世話は十分できたと思う。 |
| 2 | 病院には、私たちよりももっと辛そうな人達がたくさんいらっしゃいます。しんどいのは自分だけじゃない。そのうちにきっと良くなる。主人も私もそう信じていたので、あまり悲観的にはなりませんでした。 |
| 3 | 病気について、２人で相談していた。これからのことが、いつも心配であった。 |
| 4 | 近い将来、必ず新薬が開発されると、２人でよく話していました。度々の検査で、医者から肝臓以外は正常ですと、言われていたと聞いています。 |
| 5 | 家族、親族にまったく知らされず、転院した病院で状態を知った。亡くなるまで１ヶ月余りだった。何もかも不信感だけが今も残っている。 |
| 6 | 妹２人が、看病で疲れる私を応援してくれた。子供２人も同様である。 |
| 7 | 自分自身も病人のため、看病するのが大変だった。 |
| 8 | 自営業であったため、故人も体調が悪いながら、他人を頼んで仕事をしていたが、それも難しくなり、仕事を辞めざるを得ない状況でした。 |
| 9 | １ヶ月ほど会社の休みを取って、妻の看病に専念したし、親戚の人も交替で面倒を見てくれたし、病院の先生、看護師さんも良くしてくれたので、大変良かったと思う。 |

## 問4－1－1　故人が亡くなられた後の変化

| No. | 問４－１－１　故人が亡くなられた後の変化 |
|---|---|
| 1 | 約22年間看病していて、家族の苦労は大変でした。特に、故人の母親は、死後精神的に落ち込み、現在も続いている。 |
| 2 | 配偶者のケアが大変であった。 |
| 3 | 夫婦は、車の両輪のように支え合って生きていますので、何かにつけて充実感に欠け、空しさを感じることがあります。現在は、一人暮らしにも慣れ、友も多く楽しんでいます。 |
| 4 | 姉の私がうつになり、現在も通院している。 |
| 5 | 一家の大黒柱を失い、収入面や家族を養う責任を感じ、不安となった。 |
| 6 | １人で子供の世話をしなければならなくなった。 |
| 7 | 気持ちの変化が一番大きい。介護から解放された思いと、虚無感。実生活では、やっと自分の時間が持てるようになった。 |
| 8 | 亡くなって半年ほど経った頃、急に泣けてきたり、将来のことが不安になって、夜眠れないことが多くなった。 |
| 9 | 故人の苦しみを見ている私は、何もする気にならず、取り残された気持ちと、何故という気持ちが今もある。 |
| 10 | 子供との関係が疎遠になった。 |
| 11 | 寂しさ、悲しみはもちろんのことですが、家族が何らかによって感染していないだろうかとの不安があり、検査したこともありました。 |
| 12 | 経済面で困った。 |
| 13 | 当分不眠が続きましたが、少しずつ眠れるようになっています。子供達とも絆が、以前より増して強くなったように思えます。廻りの人に迷惑をかけないようにと、以前にも増して健康に注意するようになったと思います。家事以外は主人に頼ることが多かったので、その点苦労しています。 |
| 14 | 経済的問題と精神的な支えを失い、又、主人の両親を支えていくことになった。 |
| 15 | 当然のことですが、眠れない日々が続きました。 |
| 16 | 孤独感。家事仕事の大変さを痛感しました。 |
| 17 | 故人と２人家族でしたので、私が１人になるのを心配した二男が家に帰り、私と生活するようになりました。 |
| 18 | 突然の死でびっくりした。 |
| 19 | 故人の配偶者が、介護の疲れ等で精神的に不安定になり、薬を多用したため、副作用により一時体調を崩した。 |
| 20 | 親子がバラバラになってしまった。故人が存命中は、豊かとは言えないが、笑いの絶えない一家であった。今でも、母親の死が自分を生んだせいだと思っている子供。何とか自分の肝臓移植で、母親を助けたいと思っていた子供。しかし、当時の主治医は、そのことを尋ねた子供に、4,000万円かかると言った。子供は失意でいっぱいの日々を過ごしたと思う。未だに母を思う子供が哀れであり、悲しみの傷は癒えることはありません。 |
| 21 | 妻を失って独身生活が身に付き、何事も即断即決、行動に直ぐ移す。薬草の研究と古典文学の勉強を73才の老体が、病院での治療を併用して行っている。それに、●●●●●●の専任講師もしている（●●●関係）。妻を失って７回忌の私の生活状況である。 |
| 22 | 家族の中心であった主人が亡くなり、私や子供達の悲しみは、月日が経っても癒えることはない。和解成立し、給付金もいただきましたが、これからの人生を考えると、不安で仕方がない。 |
| 23 | 失意。今もずっと尾を引いている。 |
| 24 | １人暮らしになったため、１人息子が（離れている）ほとんど毎晩電話して、土曜日はよく帰ってきてくれるようです。 |
| 25 | 娘が精神的に不安定になった。 |
| 26 | 51才という若さで亡くなったので、とても淋しかった。いっときは、毎晩のように１人で泣いていました。 |

| No. | 問４－１－１　故人が亡くなられた後の変化 |
|---|---|
| 27 | 配偶者（父）が気落ちした。 |
| 28 | 家事を含め、子供の育成。特に食事。 |

### 問6－1　故人に関することで経験したこと－その他

| No. | 問6－1　故人に関することで経験したこと－その他 |
|---|---|
| 1 | 弟が最後の入院になった時、主治医は弟のそばに一度も来なかった。ドアを開けてのぞくだけで、肝炎が移るのを避けたのだと思った。 |
| 2 | 医薬品会社の担当が冷たかった。 |

### 問6－1－1　故人に関することで経験した内容

| No. | 問6－1の回答 | その内容 |
|---|---|---|
| 1 | 1. 医療現場で職員から差別的な態度をとられた | 他の患者と防疫処置をとられたと言っていた。 |
| 2 | 1. 医療現場で職員から差別的な態度をとられた | 医者が弟に一度も触れることがなかった。 |
| 3 | 1. 医療現場で職員から差別的な態度をとられた | 薬害について提出書類の求めに応じてくれなかった。 |
| 4 | 2. 普段の生活の場で差別的な態度をとられた | 故人が肝炎に感染していると知っている人は、やはり二次感染を気にしている人がいた。 |
| 5 | 2. 普段の生活の場で差別的な態度をとられた | 何もしないでだらけた生活をしている。 |
| 6 | 3. テレビやマスコミの報道で不快な思いをした | 被害者意識が強いみたいな報道があったとき。 |
| 7 | 3. テレビやマスコミの報道で不快な思いをした | 詳しい情報が得られなかった時。 |
| 8 | 3. テレビやマスコミの報道で不快な思いをした | 情報が知りたいのと、病気がその後どうなるのかが心配でした。 |
| 9 | 4. 周囲の肝炎に関する何気ない会話が不快だった | インターフェロンの投薬、誰でも簡単に行えるそぶり。金額が高い。 |
| 10 | 5. 故人が闘病中に周囲が支援してくれた | 子ども、兄弟等のお見舞いや手伝い |
| 11 | 5. 故人が闘病中に周囲が支援してくれた | 毎週末に兄姉達が見舞いに来て励ましてくれた。精神面でも助けられました。 |
| 12 | 5. 故人が闘病中に周囲が支援してくれた | 主人の兄が時々お見舞いに来て下さって、励ましてくださいました。 |
| 13 | 5. 故人が闘病中に周囲が支援してくれた | 配偶者や母と姉妹が面倒を見た。 |
| 14 | 5. 故人が闘病中に周囲が支援してくれた | 男親の代理 |
| 15 | 5. 故人が闘病中に周囲が支援してくれた | 医療費の立て替え払い、妹二人の看病応援、子ども二人の看病応援。 |
| 16 | 5. 故人が闘病中に周囲が支援してくれた | 激励してもらった。 |
| 17 | 5. 故人が闘病中に周囲が支援してくれた | 入院・通院等に運転が無理な時、友人達に車の送迎をしてもらった。 |

### 問6－2 肝炎判明後に生じた問題－その他

| No. | 問６－２　肝炎判明後に生じた問題－その他 |
|---|---|
| 1 | 子ども、親戚にも隠し事はせず、正確な話をした。 |

### 問6－4－2 故人が肝炎に感染したことに対して、あなたがした行動－その他

| No. | 問６－４－２　故人が肝炎に感染したことに対して、あなたがした行動－その他 |
|---|---|
| 1 | ごく普通に毎日の生活をしていた。 |
| 2 | 常日頃おつきあいしていた知人・友人など全ての人達に隠し事はせず、正しいことを話した。 |

## 問7－3 医師に対して

| No. | 問７－３　医師に対して |
|---|---|
| 1 | 大学病院、医師団、学会でＣ型肝炎の患者の広がりに、早い段階で疑問を持つべきではなかったでしょうか。残念です。 |
| 2 | Ｓ61年４月に初投与されたが、その時点では、この製剤は白血病治療に画期的な処方であったと、後に担当医師から聞いたので、医師に対しては別段悪く思っていない。 |
| 3 | 医師を責めていたわけでもなく、使用した薬の名前を聞いているのに、カルテがない、何を使ったのか分からないなどと、責任逃れが残念です。病院に聞きにもいけず、電話でも薬の名前をなかなか教えてくれず。「もう死ななければならないのだから、どうしても聞いておきたい」という、せっぱつまった言葉が、いつまでも耳から離れません。 |
| 4 | 薬害発生０％が理想でも、薬も異物であり、副作用が出る可能性もありうると思います。しかし、使用前の検査などで、可否を判断するシステム及び副作用の説明も必要。臨床実験の重要性、リスク開示など、医師と患者のコミュニケーションが大切である。 |
| 5 | 医師に対しては、その当時最大限の治療を実施していただき、感謝している。 |
| 6 | 手術に使用した時点で、このような結果になるとは、分からなかったのでは？分かっていたとしたら、絶対に許せません。 |
| 7 | 医師には責任がない。 |
| 8 | 当時にはＣ型肝炎の原因が薬だと分からなかったので、先生を責めるわけありません。 |
| 9 | 使用のリスクについて、説明してほしかった。 |
| 10 | 医師に対しては、当時最善を尽くして治療していただいたので、感謝の気持ちだけです。病院に対しては、カルテの開示拒否などがあり、不信感が残った。 |
| 11 | なんとも言えない気持ちです。信用できないという気持ちがあります。 |
| 12 | 医師も安全にものであるかどうか、研修した上で使ってほしかった。 |
| 13 | 問題があると判っていたら、絶対に使ってもらいたくなかった。 |
| 14 | 外科手術の困難は理解できるが、内外の研究等を怠ってほしくなかった。同時期、私は帝王切開でお産をしたが、肝炎にかかっていません。 |
| 15 | 手術前の説明では、１週間～10日入院と聞いていたので、本人も家族も深刻に受け止めていなかったが、フィブリノゲンを使用しなければならない結果を作ってしまった（２回の手術）事に対し、憤りを感じていたのではないかと思う。 |
| 16 | あの時点では分からなかったので、仕方がないと思う。 |
| 17 | 心臓のバイパス手術に関しては、とても良くして下さったので、先生には感謝しているくらいです。 |
| 18 | やむを得ないと思う。 |
| 19 | 故人の場合は、手術に必要な薬剤だったと思っております。 |
| 20 | どのような病気になっても、安心して受けられる病院でありますように。 |
| 21 | よくしていただいたと思う。 |
| 22 | 出産時の出血が原因であるが、フィブリノゲンという薬害の根源の薬しかなかったのか？その時の先生は命を救うための処置であり、やむを得ませんが、当時の先生を身内が探し当て、面会して当時の事を聞き、先生が「ミドリはこの薬剤に対して、もっと重篤性があると説明するべきであった。知っていれば、当時の対応も注意深くしただろうに。何故、ミドリが言わなかったのか、不思議に思う」と言った。 |
| 23 | 患者に対して、製剤に関する事実の話をするべきである。家族に対しても同様である。 |
| 24 | 医師を責めるつもりはございません。 |
| 25 | 医師に対しては、特に何も思わないが、しかし、病気を治療のための手術で、命を亡くしてしまうことになった。手術を受けなければ良かったと思った。 |

| No. | 問７－３　医師に対して |
|---|---|
| 26 | 国が許可したからといって、安心、安全ではない。世界の情報をよく見て、製剤を使用してほしい。人の命を預かる立場にある者として当然です。薬害は、医者にも倫理的責任があると思う。 |
| 27 | Ｓ63年４月頃、医者は薬害というものを、ご存知なかったのでしょうか。 |
| 28 | 当時は使うことが多かったのではないかと思う。医師に対しては、何も思っていない。 |
| 29 | 責任がないとされる事が分かって、やっと医療機関から通知があった。その態度は、医療従事者としての態度としては、失格である。状況が違っていれば、通知していないのでは？ |
| 30 | 感謝はしている。 |
| 31 | 線香をあげに来てもらいたい。 |

問7－3 国に対して

| No. | 問７－３　国に対して |
|---|---|
| 1 | 薬の臨床試験をきちんとして、ダメなものはすぐに排除してほしい。厳しい目を光らせてほしい。 |
| 2 | Ｃ型患者の救済をお願いします。<br>・薬害に対する研究所があるのでしょうか<br>・病院治療費<br>・働けない人の生活費<br>・介護施設の費用<br>命のある限り、保障してあげて下さい。 |
| 3 | Ｓ61年当時、この製剤によりＣ型肝炎になる可能性があると判っていたら、それは罪です。 |
| 4 | 非加熱製剤が害を与えることが分かった時点で、すぐ回収、中止ができていればと思うと、本当に残念で仕方がありません。薬の恐ろしさをつくづく感じている。薬害で苦しむことのないよう、安心して治療できる国にしてほしい。 |
| 5 | 薬害発生０％が理想でも、薬も異物であり、副作用が出る可能性もありうると思います。しかし、使用前の検査などで、可否を判断するシステム及び副作用の説明も必要。臨床実験の重要性、リスク開示など、医師と患者のコミュニケーションが大切である。 |
| 6 | 恐ろしい肝炎で苦しみ、インターフェロンもだめで、仕事ができなくなってしまった弟が、原因を知ったらどんな言葉を発したのだろうと思う。悔しさでいっぱいでしょう。 |
| 7 | 国民の安全管理の徹底 |
| 8 | 二度と薬害が起きないよう、厚労省が国民の立場で安全第一を目指してほしい。 |
| 9 | すべての薬品を、安易に認定しないでほしい。 |
| 10 | 薬害患者を早期救済し、苦しんでいる人を助けてほしい。 |
| 11 | 製薬会社には、どんな事があっても、絶対に害になるなんて事があってはいけません。国はもっと強くなってほしい。 |
| 12 | もっと早い時期に、使用を中止してほしかった。 |
| 13 | 病気を治す薬で、新たに重い病気に感染する。この事の重大さを理解してほしい。 |
| 14 | 患者の気持ちになって、早い対応をしていただきたい。患者とその家族は、苦しんでいるのですから。 |
| 15 | 危険な薬剤を作らないよう、そして、使用しないよう、許可しないように努めてほしい。 |
| 16 | 問題があると判っていたら、絶対に使ってもらいたくなかった。 |
| 17 | 感染拡大の被害を防止できなかった国の責任を大きいと思います。生命、財産を守る事をおろそかにした。 |
| 18 | 国は１人１人の民から成り立っていると思います。１人１人の生命が国であると思う。生命を大切にしなければ、国は滅びます。結果に対して必ず原因を追及し、正しい対処をしてほしい。 |
| 19 | もっと早く対処してほしかった。 |
| 20 | 知ってて知らん顔するな。 |
| 21 | どのような基準と安全性によって判断し、使用したのか説明を求めます。 |
| 22 | 認可基準を見直しすること。 |
| 23 | しっかりとした検査をして、認可してほしかったと思います。 |
| 24 | 今もまだ苦しんでいる人が、一日でも早く救われますように願っています。 |
| 25 | 原因の究明と対策を、もっとスピーディーに。 |
| 26 | 国は緩慢そのものである。非を認めず、争う姿勢を常に持っている。薬害（Ｃ型肝炎に限らず）という重み、観念が全くなかった。国そのものがあり方を変えない限り、薬害はなくならない。反省の意味が判らないのでは？ |
| 27 | 医療費全額、生活費保障（本人と家族）全額 |

| No. | 問７－３　国に対して |
|---|---|
| 28 | 国はある程度認識していたのでは？これからは、二度とこのような事が起こらないことを祈ります。 |
| 29 | 病気を治療するために受けた手術で、十分な検査をされていない薬で苦しみ、亡くならなければならなかった肝炎患者。そして、今もなお治療されている人々に、せめて医療費の免除をしてほしい。 |
| 30 | その頃、アメリカでは使用禁止になっているとの情報が入っていたではないですか。疑わしき製剤を国が許可→被害者続出→国の遅い対応。こういうことが、今まで何度も繰り返されてきました。国（厚労省）は、儲け主義の製薬会社との馴れ合いを止めて、国民に信頼されるよう、薬害を未然に防いでほしい。 |
| 31 | 生命の大切さを知ってほしい。 |
| 32 | もっと早く薬害を公表して、対策をとってほしかった。そうすれば、死なずに済んだかもしれない。 |
| 33 | 薬害肝炎を全面的に支援してほしい。 |
| 34 | しっかりと薬行政を行い、良い薬は早期に承認し、問題が疑われる場合、即、使用を中止させるなどの対応の早さ。 |
| 35 | 早く危険性を明らかにするべきだった。 |
| 36 | 線香をあげに来てもらいたい。 |

## 問7－3 製薬会社に対して

| No. | 問７－３　製薬会社に対して |
|---|---|
| 1 | 薬害患者を持った家族の苦しみは、経済的にも精神的にも、一生背負って生きていかなければなりません。会社が倒産しても、救済に全力を上げて下さい。 |
| 2 | Ｓ61年当時、この製剤によりＣ型肝炎になる可能性があると判っていたら、それは罪です。 |
| 3 | 利益ばかり考えないで、情報をもっと敏感に、絶対に薬害の被害が起こらないよう願います。 |
| 4 | 薬害発生０％が理想でも、薬も異物であり、副作用が出る可能性もありうると思います。しかし、使用前の検査などで、可否を判断するシステム及び副作用の説明も必要。臨床実験の重要性、リスク開示など、医師と患者のコミュニケーションが大切である。 |
| 5 | 利益を求めるだけではなく、もっとモラルを持って経営してもらいたい。命を大切に考えること。 |
| 6 | 人命を第一に考えてほしい。 |
| 7 | 利益優先が、薬害肝炎被害者を増大したと言える。製薬会社の良心を、国が指導するべきだと思う。 |
| 8 | 製造は慎重にしてほしい。人の命が第一です。 |
| 9 | 今後、このような薬で苦しむ事のないよう、十分に気をつけて薬を作ってほしい。 |
| 10 | 害のある薬を世に出すことはダメ。それは常識です。 |
| 11 | もっと早い時期に、使用を中止してほしかった。 |
| 12 | 怨、恕 |
| 13 | 患者の気持ちになって、早い対応をしていただきたい。患者とその家族は、苦しんでいるのですから。 |
| 14 | 安全な薬剤の研究と使用を考え、二度と薬害を起こすことのないようにしてほしい。 |
| 15 | 問題があると判っていたら、絶対に使ってもらいたくなかった。 |
| 16 | 社会的に崇高な会社だと思っていましたが、患者や医療機関に責任を押し付ける、二枚舌の社会構造を直してほしい。 |
| 17 | 生命を救うのも薬であるけれど、薬は毒にもなる事を考えてほしい。大黒柱を失った被害者を、自分の事として考えてほしい。心ある仕事をして下さい。 |
| 18 | 許されないことだと思う。今後、絶対薬害が起きないようにしてほしい。 |
| 19 | 金もうけばかりで、安全を考えてほしい。 |
| 20 | 現在、和解していない患者への、一律保障を望みます。 |
| 21 | 命の大切さを考えてほしかったです。長い闘病生活を送って亡くなった主人は、さぞ残念だったと思います。私も残念でたまりません。 |
| 22 | 二度とこのような悲しい事が起こらないように、安全な薬を作ってほしい。 |
| 23 | 社会的責任の自覚 |
| 24 | 大量殺人集団である。尊い人の命より、国と一緒になって金儲け。このような企業に対して、法的制裁をしない日本の司法に幻滅を覚える。名前を変えて、またこんな会社が出るのであろう。失った大きなものを、どうしても返してほしい。 |
| 25 | 医療費全額、生活費保障全額 |
| 26 | まず製薬会社、長年の実験研究を重ねてほしい。 |
| 27 | 十分な責任を取ったとは思えない。 |
| 28 | 国民はモルモット（実験材料）ではない。被害者が出たので、保障したではないかとの安易な無責任な考えでは、命は守れない。儲け主義では困る。他国の情報も先手先手で取り入れて、安心、安全な薬、製剤を開発、提供してほしい。 |

| No. | 問７－３　製薬会社に対して |
|---|---|
| 29 | 人のために役立ってほしいと思います。薬害は、大量殺人とあまり変わらないのではないかと思っています。 |
| 30 | 薬害の危険性を把握しながら、適切な対応を怠った事は、今でも腹立たしいです。 |
| 31 | 自社の利益のために、副作用のある薬を安易に出してほしくなかった。 |
| 32 | 二度とそういう薬を作らないでほしい。 |
| 33 | 薬を生業として利益を得ている以上、問題が発生した場合、しっかりと責任をとるという姿勢、営業方針でなければ廃業せよ。 |
| 34 | 早く危険性を明らかにするべきだった。 |
| 35 | 頭を下げに来てもらいたい。 |